第2回セッション 「いと」

赤い糸vs超ひも理論！？

テーマ：いと

投票総数：205件

順位	ポイント	投票数	作品タイトル	作成者	作者コメント	コメント数	最新投稿時間
1位	33	14	his word, her world.	bfs（ぱんつ）	有	30	9/9 19:44
2位	32	15	モノクローム	白雨	無	32	9/3 5:25
3位	26	15	極楽と地獄のあいだ	s.o.u.p.	有	30	9/9 20:29
4位	24	12	ツルの恩返し	to　洋灯	有	20	9/11 4:10
5位	17	10	救いのひとすじ	ノア	有	17	9/3 5:49
5位	17	8	愛しき、赤へ	黒眉	無	19	9/3 5:47
	16	8	その二人、冒険屋	greenbard	無	34	9/3 4:58
	14	9	自然と向き合うということ	神代千早	有	14	9/2 21:7
	14	9	わたしのことを　きらわないで	弟子	無	11	9/2 6:26
	13	9	＊ナイトメア依存症＊	バケネコ	有	20	9/2 15:35
	13	8	あなたの好きなことをしなさい	BRAZIL	無	12	9/3 5:47
	11	6	糸といえば	太祖武帝	有	18	9/7 12:40
	11	9	ちよこれいと	カエデ	有	14	9/3 3:7
	10	8	星の巣	halcyon	有	15	9/5 4:1
	9	6	糸話	葉月	有	22	9/11 4:17
	9	5	いーとー・まきまき	EtOH	有	11	9/2 20:8

9	5	あなたには、こんな糸は見えますか？	Albino（ウツボット）	有	12	9/3 3:41
8	4	青く儚く	ストレイト・クーガー（ぷろじぇくと D）	無	19	9/3 5:14
8	6	女王	やまのかめさん	有	7	9/2 13:9
7	6	～	qofhk	有	16	9/3 15:52
6	5	ストレスを感じて	ひま人	有	14	9/3 3:13
4	3	蜘蛛の糸	カッシーニの空隙	無	10	8/31 18:19
3	2	この作品の「意図」はなにか？	それから	有	17	9/5 13:7
3	3	糸と少年	SOta	有	11	9/3 15:57
3	2	二人を結ぶは赤い糸	春	有	7	9/2 12:31
3	2	切れた赤い糸からやさしさを	evolv	有	11	9/10 14:28
3	3	日記（ブログ）について	sinamo	無	19	9/3 16:9
2	2	白い糸	ニャルラトホテップ	有	11	9/3 16:1
2	2	縛	BELIAL	有	18	9/15 19:46
2	2	糸の行き先	me	有	8	9/3 0:39
1	1	少女	箒	有	6	9/2 6:28
1	1	史実の中の真実	パンリコ	有	12	9/2 17:32
1	1	糸 の い ろ	柚子(ゆうこ)	有	8	8/31 6:35
1	1	betrayed	森　武	有	14	9/3 1:5
1	1	蜘蛛のいと	未草	有	11	9/2 12:26
1	1	ピアス	石花	有	8	9/3 4:56
1	1	いとしきうそ	laket	有	11	9/2 4:42
0	0	愛のかたち	カゲヤマ	有	7	9/2 12:35
0	0	「いと」ってなんだ！？	no price	無	19	9/2 14:59
0	0	いとの上	八剣	有	12	9/2 23:0

his word, her world.

総合順位：1位
合計ポイント：33 Point
作者：bfs（ぱんつ）
作者コメントを読む

「超ひも理論、って知ってるかな？

「タイプ・ワン、タイプ・ツーエー、タイプ・ツービー、ヘテロ・エスオー・サーティーツー、ヘテロ・イーエイト・バイ・イーエイト。現在ではその五種類に分かれているのだけれど、物凄く簡単に言ってしまうとこういうことだ。

「素粒子――物理学の最小構成単位は、零次元の点ではなく、一次元的な大きさを持つ線である、と。

「フォトン、クォーク、グラビトン。この世界中のものを構成している、原子なんかより遥かに小さな素粒子が、粒ではなく振動するゴムひものようなもの、と言われてもさっぱりイメージが湧かないだろうし、この理論によって宇宙は十次元にまで拡張される、と言われても最早言葉の意味さえ分からないと思う。そもそも、こいつはまだ仮説の域すら出ていない。じゃあなんでそんなことが言えるのかって？　そう考えると辻褄が合うからだよ。

「辻褄が合う。つまり、物理という理論で世界を説明できる。言ってしまえば、本当にひも状かどうかは関係ないんだ。勘違いしている人が多いんだけど、物理、というか自然科学というものは、原理、方程式ありきの学問じゃない。原理から現実を導き出すのではなく、現象にすり合わせるように理論を作り上げるものなんだ。演繹ではなく帰納。それは、天動説が地動説に取って代わられ、古典物理学の原理が相対性理論と量子論によって否定されたことがいい例だろう。パラダイムシフト、かくして科学の世界は一変せり。

「――そう、認識が世界を作るんだ。

「この世界は、三次元空間として僕等の眼に映っている。だけどこの世界にはもう一つ『時間』という軸があって、過去現在未来、一切の事象は同一の四次元空間上に広がっている、と考えることも出来る。ウラシマ効果のように、観測者によって時間の流れが変わる、というのがその証拠だ。そんな風に考えると、なんだか自分のいる現実というものが、とてもあやふやなものに思えてこないかな。そんなのありえないだって？　そもそも自分達が今見てるものだって、道端に落ちる影と同じ、三次元空間から投影された二次元写像に過ぎないというのに。

「認識、宗教、価値観、深層心理、物語。様々な呼ばれ方をする『世界の読み方』は、人の行動原理となっている。そしてそいつは、往々にして『中』と『外』を分けるんだ。クー・クラックス・クラン、白人至上主義者にとって黒人は人間ではなく、僕等日本人にとって共同体の平穏、空気を乱す奴は問答無用で排斥すべき人間、といったように。

「そして、個々人単位においても『世界の読み方』はそれぞれ異なっている。全く同じものが見えている、ということはありえない。というか証明できない。クオリア、脳に浮かぶイメージなるものが正体不明である以上はね。だけど、それじゃ永遠に孤独なままだから、人は自分の住む世界の『中』に他人を入れようとする。

そいつを成し遂げる手段だからこそ、コミュニケーション、分かり合うことは楽しいんだ。

「さっきから何言ってるのかさっぱり分かんないって？　ごめんごめん、悪かったからそんなつまらなそうな顔をしないで。まあ、要はこういうことだよ。

「死が二人を別つまで。君と僕の世界で、幸せに生きていこう、ってね」

★

　夫（断じてヒモではない）はたまに、酒に酔った挙句こういった変な話をする。口で言われてもまるで意味不明である。
　だけれども。私と彼はまるで奇跡のような偶然で出会い、まるで運命のように偶然が積み重なり、そして夫婦となった。ホント普段はいい奴なのだ。――だから、神サマなんていなくても、これだけは疑いようがない。

　この世界において。赤い糸というものは、確かに存在する。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
バケネコ 8/26 12:10	やばい、どストライクです。導入部分といい、カギカッコつき改行の演出といい、夫の話の結論といい、（断じて…）のセンスといい、もうもう完璧にどストライクです。
柚子(ゆうこ) 8/26 23:44	わたくしは物理とは関係なく生きているので、この文章を読んで感じたことは「ごちそうさま」という言葉だけでした。この女性は 今のところ幸せです。
春 8/27 23:12	『だけれども』『この世界において』の後の句読点が少々気になりましたが。 ＞「――そう、認識が世界を作るんだ。 はラストの伏線になっているのでしょうか、その点は非常に面白いと思います。 ただ私も前半部で大分お腹一杯になってしまいました。
神代千早 8/28 12:42	そんな作者さんには「エレガントな宇宙」がたぶんお勧めです。帯に「世界で40万人に超弦理論を理解させた」という主旨の文句が書いてありました。残念ながら私は２回読んでも世界で40万人の中には入れなかったようですが、ともあれお勧めです。 物理の内容については「この理論によって宇宙は十次元にまで拡張される」「古典物理学の原理が相対性理論と量子論によって否定された」など精密な表現ではないので、異論はあります。例えば「この理論は対称性を満たすために10次元を必要とする(後続の話題の時間の次元とは異なる話)」「古典物理学(古典の力学なのか電磁気なのか統計力学なのか、種類を明示した方がより厳密ですが)の原理は相対性理論や量子論によって近似解であることが明らかにされた」とかした方がより物理的でしょう。いえ、一般の方（妻？）への説明なので物理的厳密性は捨てるというのはひとつの正解だと思いますが。 もう一つ、認識が世界を作るというのと量子論の観測問題をごっちゃにすると、極端な相対主義を取る社会学者の一部の人が変なこと言い出すので多少は話題を整理した方がいいでしょうとか、酒飲みに言っても仕方ないことを言ってみる。たぶん、後半の話題と言い、この夫は物理学者ではなくて哲学者なんでしょうね。哲学については各々が好きにすればいいと思います。ちなみに私は「分かり合うということは妄想に過ぎない」と周辺の人に普段から主張しています。閑話休題。 ええと、夫はうっとうしい人ですね。でも理解できます。私は自分が酒に酔わないのに意図的にこれに類することをしていることを自覚していますので。最後に甘い台詞が出てきたりはしませんが。 そして妻の独白を聞いた上でこう言うでしょう。

	「奇跡と言ってもそれは結果論であり、偶然僕と結婚しなくても、誰か別の人と偶然結婚して同じように思ったんじゃないかな。だから特別な感慨を抱くには値しないと思うよ」 たぶん私は夫になるのには向いていないのでしょう。妻の側のセンチメンタルな感想には共感できませんでした。 言い訳がましいですが、作品の否定ではありません。作品全体としては興味深いです。作者さんがこの夫のように考えていらっしゃるのなら、ぜひお話ししてみたいです。
さくしゃだよ 8/28 13:0	うおおお。 今すごいこの場でコメントを付けたい衝動に駆られているがマナー違反になっちゃうので我慢だ俺。 作者コメントをお楽しみに！（それは作品としてどうか）
めんとすこーら 8/29 11:54	雰囲気がいいですね。 これで妻がバリバリの理系だったらまた違った話になるのでしょうか。
evolv 8/29 21:57	理系と文系でも幸せになれるんですね。こんなの頻繁に聞かされてたらたぶん無視するだろうな。 さすがに夫の台詞は軽く読み飛ばして、妻の部分が好きでした。
やまのかめさん 8/29 22:31	彼の方の台詞の嵐はつまりは照れ隠しのノロケだと読んでいたんですが、作者さんが反応してるってことはこの物理うんぬんの部分にもこだわりがあるんでしょうか？ 「認識が世界を作る」とかなにか伏線になってるんですかね？ 物理の通俗書などを読むのが大好きな男が酔っ払ってクダを巻いている場面の描写としては大変秀逸かと思いますが。彼の方の台詞は真面目に読もうとすると、飛躍の大きさがいちいち気になってしまいます。 ただやっぱり妙に思わせ振りな部分もあるんですよね。作者さんの反応もあって、もう少し深読みできないかと考えてみました。彼の台詞は「死が二人を別つまで。君と僕の世界で、幸せに生きていこう」それ以前に彼は個々人の認識世界の話をしているわけで、この彼の結論はつまり二人が同じ世界にいる＝分かり合えているということになるのでしょうか。でもって彼女の方は夫の話を意味不明としながら、それでもこれまでの経過からこれだけは疑いないと確信しているのは、まさに彼の言っている「そう考えると辻褄が合う」をいつの間にか実践していたことになる？ これはつまり彼女は無意識のうちに彼の世界に足を踏み入れていることを示している？ 最後の彼女の結論の方でも「この世界」は、彼女の認識による彼女の世界、というよりも、分かり合っている二人の世界、になる？(彼女の側は無意識にではあっても) つまり大量の理屈が並ぶ his world と直感的な her world が結局は同じ結論に到達している？ やっぱりノロケ話だ(苦笑) なんてとんりあえず思ったことをとりとめもなくだーっと書き並べてしまいましたが、作者コメントを楽しみにしていますね。
halcyon 8/30 0:16	実のところ、初めに見たとき、タイトルが誤字なのではないかと疑いました、はい。 夫が鬱陶しいかどうかは個人の感想ですが、恐らくこういう話を介してのコミュニケーションが可能な分野の職に就いている人なんだろうなぁ、とは思いました。ただの照れ隠しかも知れませんが。 最後の台詞がすらっと言えるなら、あんな理論展開も要らないような気もしますが、そこはコラムの世界ということで。
バケネコ 8/30 11:56	＞halcyon 個人的に理論展開部分はむしろ恥ずかしいくらいにロマンチックな内容だと感じるので（そこがツボなのですが）、この理論展開を並べたてられるからこそ最後のセリフもすらっと言えるのだ、という気がします。 要するに、理論物理はロマン（とあえて断定してみる）。
ノア 8/30 15:12	コミニュケーションについて触れているあたり、夫は妻にこのたくさんの言葉を出来れば理解して欲しいと思っているのでしょう。 まぁその必要はなさそうですが。 細かいことですけれど、夫が妻に話すのに「超ひも理論って知ってるかな？」という疑問文から入るのに多少の違和感を覚えます。
SOta 8/30 17:28	長ったらしい話は十分に長く、大事な文章が短くまとめられていて、そのバランスが素晴らしいと感じました。

EtOH 8/30 22:24	前半のお話、するするーと読みながら、でも楽しませてもらいました。こんな友達が欲しいなぁ～と中学・高校時代よく思いましたねぇ～（なぜかみんな昼休みとかにこの手の話をするとだんだん離れていくんですよね・・・。あぁ、苦い思い出が・・・）。妻がちゃんと話を聞いてくれているのは素晴らしい、なかなかいないですよ～、こんな人（文系は特に）。なんかいいな～～。
パンリコ 8/31 11:10	だんな様は日々真摯に難しい研究をされているのでしょう。 それでも足りず家庭に戻り、こんどはまるで肩までどっぷりお風呂に浸かっているように気持ちよさそうにまたまた物理の世界を持ち出して来る。 書かれてはいないけど、きっと奥様が「のぼせるから早く出なさい」的な発言をしたのでしょう。 すると「死が二人を・・・」と言いながら現実に戻ってくる。 そんな感じの作品でした。 いい夫婦です。お手本にしたいです。 難しくて解からないけれど振動するゴムひもって、私のクオリアは、かわいい！ とイメージしました。 理論物理はやっぱりロマンです。
白磁 8/31 19:58	夫、譲ってください。 超ひも理論の本、買ったけど読んでないです。読もう。
ひま人 8/31 21:49	夫、酔ってるね～ 絶好調じゃないですか～
halcyon 9/1 1:18	＞バケネコさん 確かに、理論を追い掛けるというスタンスはロマンチストでないと出来ませんねー。 自分が非ロマンチスト（理論系の話は好きだけど）なので視野が狭くなってました。ご意見ありがたいです。
kate 9/1 13:37	夫はもっと最初から素直になった方がいいと思います。
aya 9/1 23:15	夫がまったく理解できない話をしても、そこに幸せを感じる。愛ですね。 始めはどんな講義かと思ったら、まさか夫婦の話だったなんて。 まとめ方がとても上手いと思います。 『「』のみで『」』のない文章は個人的にあまり好きではなかったのですが、この文章では逆に女性の側のリアクションなどが想像しやすいと感じました。男性の最後のセリフだけ『」』で締めてあることも、3種類のいとが出てくることも、ほんとにセンスがいいと思います。
ことり 9/1 23:37	私にとってもこの夫の話は完全に意味不明でまったく理解できません。読んでいて頭が痛くなりました。 だから、終盤の夫の言葉にはすっかりコロリです。やられました。 妻の気持ちに大共感。赤い糸の存在に1122票！
Albino 9/1 23:39	糸＝ひも…ああ、その手があったか！この類には慣れ親しんでいるはずなのに… やっている人間から見るとずいぶん簡略化してあるなあと。 話が割と飛び飛びなところで自分は「ん？この人酔ってるのか？」と見れたのですが、どうなんだろう… 分かるからこそさらっと読めたこともあるだろうし、 やっぱり物理をやっていない人は最初の４つの台詞あたりでお腹一杯になってしまうかと。 本当に好きになる人は微妙に分かれてしまうから、必ずしも万人向けではないのかな…？ とも思ってしまう。自分的には好きでした。
BELIAL 9/1 23:45	こんな夫婦だったらずっと仲良くいられるんでしょうね…
カエデ 9/2 0:40	超ひも理論は思いつきませんでした。 まさに「いと」で、２人の愛が伝わってきて、無駄のない完璧なコラムだと思います。 私も見習いたいな。

King Of Neet 9/2 15:16	最初はよくわからない物理の文章だと思って読んでいると、突然夫婦の話に… でも、最後は簡潔にまとめられていて読みづらさは感じませんでした。
葉月 9/2 15:20	時間軸の概念から現実があやふやというつなぎは、ちょっと苦しいかなあ、と。 でも、それ以外はすごい面白いです。確かにセンスがいい。締め方に惹かれました。説明もかなり分かりやすいし、過不足なしですな。
ザ サン・オブ・オージー 9/2 19:29	さすがにこんなノロケはないけど・・・ わたしの学科ではこんな理系話が花を咲かせています。 ――そう、認識をみんなで作るんだ。
imt14 9/3 1:5	全部読んでからタイトルを見て、あ、凄い、と思いました。 夫の話と、それに対する妻の理解の対比がとても面白くて、幸せそうで良いなぁと。
qofhk 9/3 5:1	いい感じにもとめてあっていいです。 こういう酔っ払いたまにいますね
葉月 9/9 9:2	なんか知らないうちに喧嘩を売られてしまったようです。結局、変人度はどうなんでしょう。順位的に僕が負けたのか。広く受け入れられる＝ノット変人ということで僕が勝ったのか。 どう思いますbfsさん。
bfs 9/9 19:44	> 葉月さん 「人間の性質というものはスカラーではなくベクトルだ。ベクトルの向きに本来上下はない。もしあるとすれば、それは『認識』の多数決から来るものだ」 中の人だったらきっとこんなこと言うんじゃないでしょうか。 ええ、言うまでもなく自分は中二病です。

ＴＯＰへ

モノクローム

総合順位：2位
合計ポイント：32 Point
作者：白雨
作者コメントはありません。

少女は、先天性色覚異常だった。
普通色覚異常だと緑と赤の見分けが付かないが、少女の場合は二色だけではなく、全ての色が判別出来なかった。
目に映るのは黒と白の濃淡が織りなす世界。

少女は手術のために入院することになった。
成功すれば、色覚異常は治り、黒と白の世界は終わるのだという。
見知らぬ場所に放り込まれてしまうようで、少女は不安だった。

「心配することないよ。これで全ての色が手に入るだから」
見舞いに来た幼馴染の少年は、そう言った。
「それより手術が成功するように、千羽鶴作ろうよ」

少女はうなずくと、折り紙を手に取った。
本来なら、色とりどりに見える筈の折り紙。
けれどそれもまた、少女には濃淡の違いとして認識されるだけだった。

いつものように遊ぶかわりに、二人で鶴を折っていく。
ある程度数が出来ると、少女が鶴に糸を通した。
色とりどりに、華やかに映るようにではなく、白と黒のグラデーションになるように。

だってこの方が綺麗じゃない、と少女は呟いた。

手術の日、最後の鶴に糸を通すと、少女は旅立った。
「戻ってくるまでにつるしておくから。一番最初にこれが見れるよ」
少年に背を押されて少女は黒と白の病室から手術室へと行き、目をつむった。

手術は成功し、少女は目隠しをしたまま病室へと戻った。
二人で作ったあの千羽鶴はどう映るのだろうと思いながら。
グラデーションになるように紡いだけれど、今のこの目には、きっとちぐはぐに見える。

「お帰り」

瞼から布はひらりと剥がれ落ちる。

少女はゆっくりと目を開け、そしてベットの横に綺麗に下げられた千羽鶴を見た。

それは、黒と白と灰色で出来ていた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
bfs 8/26 12:48	幼馴染の鬼畜っぷりは異常（でいいんだよね？ 手術は成功したそうだし）。 いやホントここまでの後味の悪さは凄い。
evolv 8/26 22:2	ナイスいじめ！
八剣 8/26 22:48	ちょっとした茶目っ気と読みました。 傷つくのか、吹き出すのかキャラの性格が伝わってこないので意図がわかりません。
halcyon 8/27 0:11	少年は少女の目線に（色だけど）合わせるべくわざとモノトーンで千羽鶴を折っていた… という解釈だと少年に肩入れしすぎですかね。
黒眉 8/27 0:19	私としては、「見知らぬ世界に放り込まれてしまうようで不安だった」主人公を気遣って、一番最初に見ることになる千羽鶴は今までと変わらないようにしたのではないかと思いました。幼なじみの計らいだと信じたいです。「ちぐはぐに見える」もきっと不安を表しているので、主人公はきっと千羽鶴を見て安心したと思います。
EtOH 8/27 1:9	はじめはいやがらせかとも思えましたが、幼馴染という関係などから考えておそらくそれはないだろうと・・・。 僕は、「きっとちぐはぐに見える。」は今の自分の目ではどんなふうに見えるんだろう？っていう少女の未知の世界に対する期待みたいな感じかなぁと読んだのですが、変でしょうか？　そう読むと、幼馴染の少年の行動はちょっとしたいたずらで、少女はきっと楽しみを奪われてあらら？という感じなのかなと。(まぁ、少年もこの状況でいたずらを考えつくのはどうなんだろうという感じですが・・・)
弟子 8/27 3:59	"me,too"
BRAZIL 8/27 15:45	私は、幼馴染がしたことが、もし主人公の手術が失敗したときに、「ほら、見えてるじゃん。」って元気付けるための気遣いだと思いました。 読者に、様々な印象を与える作品だと思います。
春 8/27 22:48	題材も素敵、話の流れも素敵、少女が期待に満ちた姿で包帯をとる姿が目に浮かびます。 なのに 手術失敗という選択肢が潰されているなら、これはやはり少年のイタズラなんでしょうか。 正直いい話をわざわざ後味悪くする意図が理解できません。 少女はこのちぐはぐな千羽鶴を見ることを楽しみにしていたと私は思うのですが。 >BRAZILさん 主人公の手術が失敗したときにその言葉をかけるのは、この上なく残酷なことのように感じられます。
ぷろじぇくと D 8/28 21:50	流れが分かりやすくて、しかも内容も面白かったです。 　景色の描写の少なさが、色覚異常によって周りの風景に興味がない感じが出ていたかなぁと思います。
浅間ぱんだ 8/28 23:36	折っている時点では色を楽しめない少女を気遣って、少年はあえて白灰黒の折り紙を用意していた＝少年いい人 と読んだのですが、なるほど、いやがらせって解釈もアリなんですね。

黒猫 8/29 11:33	いたずら、なんでしょうね。黒と白と灰色の千羽鶴を見せたあとに、冗談だよ〜、とか言いながらカラフルな千羽鶴を取り出したら良いんじゃないかな。 お題の「いと」は、千羽鶴の「糸」よりも、少年の「意図」の部分にかかってると見ました。
やまのかめさん 8/29 13:46	うーん……作者さんの意図はなんだろう。読者の想像にゆだねたいのか意表を付きたかったのか。ハッピーエンドを期待させるような高揚感を感じたわけでもないので意外ではありましたが衝撃的というわけでもなく、幼馴染について想像をかき立てられるような余韻もなく、淡々とはずされたという印象なのですが。 えーと、ちなみに、現実世界では色覚異常の治療法ってありませんよね？？？ 個人的にはむしろそこで「えっ！？」っと感じてしまったもので。お話の展開の都合で治療法があることになっているのだと思いますが。
greenbard 8/29 16:6	読み手をドキッとさせる。それだけでも充分、作者さんが文章を書く「目的」にはなると思います。ボクは、でも、この少年が少女と同じ立場を共有しようとして白黒の千羽鶴をつくったのだ、と解釈しています。「ちぐはぐに見える」というのは、両方の感情が混在しているのでしょうね。「ちぐはぐ」になってしまうことへの恐れもあるでしょうし。そうなることへの期待もある。だから、確かに結果的に見れば、少年のやったことはひどい悪戯のようになってしまうのかもしれません。でも、子供の純粋さは得てしてそういうものだと思ったりもします。だから、別に変な感じも持たず、（少年にとっても少女にとっても）予期せぬ結果になった、という物語なのだと思います。着眼点、展開ともに面白くって。よくできていると思います。
カゲヤマ 8/29 17:0	コメントが熱いですね。 正直私も白と黒の折り鶴は悪意に取るべきか善意に取るべきか悩みました。 すっと意味が伝わらないという意味で「よい作品じゃない」という人もいますが、考えたくなるので私は好きです。 私の感触としては幼馴染みの軽いイタズラだったのでは？と思います。（いじめではない） （ちなみに私の聞く所によりますと色覚異常の方でも色は簡単には、とくに黒系の色かそうでないかくらいは分かったそうですが？ まだ少女とはいえ簡単な色は教えてもらっていそうですし、私たちが白黒写真を見ても簡単に色の違いがわかるように。参考まで）
halcyon 8/29 20:4	色覚異常と一口に言っても色々ありますからねぇ。 色盲でも白黒は分かるし、色弱の場合、人によって違ったはずですよ。 （友人知人に色弱の人がいるもので） 色弱は眼鏡で矯正出来ますから、手術が出来るのかもしれませんね。詳しくは無いですけど。
石花 8/29 21:9	きっと少年はがんばって三色集めたと信じたいです…
八剣 8/29 23:34	いや、三色ではなくグラデーションが出来るんだから灰色に濃淡のバリエーションがあると思うのだが。
神代千早 8/30 13:9	なぜか攻殻機動隊のSAC2を思い出しました。全然関係ない話ですいません。 最初、私も幼なじみのいたずらかと思いました。その割には少年の態度がポジティブで座りが悪いと。純粋な悪意ならそれでもいいのでしょうが違和感が残ります。 次の可能性として少女が折り紙を用意したので、区別がつかなかった可能性を考えました。 でもこれは幼なじみが一緒に折っているのですぐに棄却できますね。 で、脳の情報処理の問題と考えました。我々が目に見えるものをそのように判断しているのは脳なので、もしかしたら脳が視覚信号を解釈できていない状況を描きたかったのかと思いました。 たとえば草食動物は一般に顔の両側に目がついていて、人間とは異なった風景を脳で処理しているはずですが、当人はそこに違和感を感じないでしょう。でも、いきなり人間の両目に体の側面にある風景の入力を別々に行ったら、おそらく歩くことも出来なくなるのではないかと。我々が前方を見ることができるのを当たり前だと思っていて、それがあたかも目の役割であるかのように錯覚していますが、「見て」いるのは脳であることに思い至ってもらうために違和感の残る構成を取ってみた実験作かなとの解釈です。 正直、この解釈は作品だけから読み取るのは無理があるように思うので私の妄想ですが、自分の中では一番すっきりする解釈です。 カゲヤマさんの「私たちが白黒写真を見ても簡単に色の違いがわかるように」は、通常色のある記憶があるから勝手に色を補完しているだけで、「色の違いがわかる」わけではないように思います。

	わかるなら一意に白黒写真からカラー写真が出来ますが、そういうわけではないですね。 こちら面白い技術ですが http://blog-tech.rikunabi-next.yahoo.co.jp/blog/hirabayashi/88
ノア 8/30 17:48	わぁ！！酷いよ少年くん！！ …と初めはそう読みました。 でも読み返してみて、 「見知らぬ場所に放り込まれてしまうようで、少女は不安だった。」とあったのを発見。 少年は少女に白と黒の世界を残してあげたのですね。 彼女は千羽鶴を見る度にその懐かしい世界を振り返ることができるのでしょう。
SOta 8/30 22:22	少女が先天的に色覚障害ならば、手術後、色というものをみたことのない状態で「ちぐはぐに見える」ことが想像できるのか、と少しばかり違和感を感じました。 話題になってる千羽鶴については、不安だった少女に白黒の世界を残してあげたんだと思いたいです。
カッシーニの空隙 9/1 12:35	きれいなグラデーションの白黒おりがみってあまり想像できません。 むしろ手術は失敗したのでは？ 手術したけど結局治らずに今まで通りのモノトーンの世界しか見えなかったのではないでしょうか。
kate 9/1 13:44	最初は酷いと思いましたが、少年の優しさだったんですね
bfs 9/1 15:0	色覚異常を直すための手術でモノトーンの千羽鶴ってどんな嫌がらせだよ、と思う。 だから「鬼畜幼馴染」説がとりあえず有力だと思うんだけど、それでも幼馴染を信じるなら神代千早さんやSOtaさんの話のように、「先天性異常のため色というもののイメージ（クオリア）を持ってない」→「色を脳が認識できない」という解釈も出来なくはないなあ、と思い直した。 最後の文の「誰にとって」が曖昧だからなんとも言えんが。 参考：マリーの部屋（Wikipediaより） ---------- マリーは聡明な科学者であるが、なんらかの事情により、白黒の部屋から白黒のテレビ画面を通してのみ世界を調査させられている。彼女の専門は視覚に関する神経生理学である。次のように想定してみよう。彼女は我々が熟したトマトや空を見るときに生じる物理的過程に関して得られる全ての物理情報を手にしており、また「赤い」や「青い」という言葉の使い方も知っている。例えば、空からの特定の波長の光の集合が網膜を刺激するということを知っており、またそれによって神経中枢を通じて声帯が収縮し、肺から空気が押し出されることで「空は青い」という文が発声される、ということをすでに知っているのである。（中略）さて、彼女が白黒の部屋から解放されたり、テレビがカラーになったとき、何が起こるだろうか。彼女はなにかを学ぶだろうか？ ---------- http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%81%AE%E9%83%A8%E5%B1%8B
s.o.u.p. 9/1 20:17	自分がこの少女だったら、きっと白と黒だった世界の記憶も大切にしようと思うかもしれません。 書き方もそうですが、優しいコラムですね。
BELIAL 9/1 23:38	私が彼女の立場だったら思わず怒ってしまいそうですね。 でも、昔の経験したこと、特につらいことを忘れてはいけない。 そんな教訓が含まれているような気がしました。
Albino 9/2 0:52	明るい話かと思いきやいきなりズドーン。 これは、少年がどんな性格であるかによって話の趣旨がずいぶん変わりますね。 ただ春氏と同じく、ここまで綺麗に描けるなら、そのまま綺麗で突き通しても良かったのかなと。 おそらく、少女は少年の気持ちにかかわらずまずは絶望するのでしょう。 それは違うのではないかと少女が疑うのはおそらくずっとあとの話。 「きっとちぐはぐに見える」は、ある意味そう願っている節もあるのではないかと。 …読み方は千差万別ですね。

ぷろじぇくと D 9/2 23:18	>bfsさん >>「鬼畜幼馴染」説がとりあえず有力 　どこをどう読んだらそうなるんでしょうか？　決めつけず、もうちょっと作者さんの意図を読んでみて下さい。
bfs 9/2 23:59	> Dぷろじぇくとさん（アニキとお呼びすべきでしょうか…） > 見知らぬ場所に放り込まれてしまうようで、少女は不安だった。 > だってこの方が綺麗じゃない、と少女は呟いた。 この辺見落としてました。 それだと確かに「幼なじみはきちんと相手の意図を汲み取った」って考えられます。作者の意図としてはそれが正しいのかもしれません。 でもさ、いくら何でもやっていいことと悪いことがあるんじゃねえの？ って感じがどうしても取れないのもまたありまして。ホントにこの二人の仲が強いもので、少女が治療後に「もう…バカなんだから…ぐすっ」とか言ってくれたらそりゃ彼らの間じゃいいんだろうけど、そもそも見舞いに来てるのこの少年だけじゃないだろう、と。俺が少女の親だったらこんなんあったらキレるぞ。 で、その辺を補強するための描写が全くない（少女自身のフォローすらない）のがすっきりしない原因。 これならまだ認識障害（？）説のほうが腑に落ちる、ってのが俺の（読み直した後の）感想です。
aya 9/3 4:2	「色覚異常が先天性である以上、手術をして目が正常になったとしても脳が色彩を認識できていない」と読みました。 何をもって手術を成功としたのかはわかりませんが、ただ予定通りのオペができたということなのではないでしょうか。「手術は成功し」と書いてある部分ではまだ少女は目隠しをはずしていないわけですし。 それと、最後にズドーンと落とすのも、このあとの展開を読み手がハラハラしつつ想像を膨らませられますし、良い点なのではないでしょうか？ ただ、どうでもいいことですが、水晶体だけいじるもの（老眼の手術など）ならともかく、視神経に触れるような目の手術をする場合は、術後数日か数週間してから包帯をとるものと記憶しています。詳しくは知らないので、どなたかこの点についてご存知の方がいればコメントをお願いします。
qofhk 9/3 4:58	するどいオチが笑えました
laket 9/3 5:25	うわぁ、悩みどころですね。ただ雰囲気的に幼馴染をあえて鬼畜にしてないと思うんですけど……。 グラデーションから3色構成になったってことはたぶん少年がわざわざ一人で作り直してるんですよね。そんな手間暇かけた鬼畜はさすがに。 違和感を少なくする暖かい配慮だと思うんですが、僕なら少年を殴っているかもしれません。

ＴＯＰへ

極楽と地獄のあいだ

総合順位：3位
合計ポイント：26 Point
作者：s.o.u.p.
作者コメントを読む

私は死んだ。

生前はエンジニアだった。得意なことを仕事にしたからか、そこそこの実績を得ていた。だが、仕事が楽しすぎて不眠不休で作業していたのが仇になったらしい。過労で倒れ、そのまま帰れなかった。
学生の頃は二日に一度二時間仮眠をとれば済んでいたというのに、数年で随分歳をとったものだ。

そして今、私の目の前に針が生えた椅子に座らされている人や、釜で茹でられてる人がいる。すぐ近くに血の池も見えた。
獄吏の説明によると、ここは地獄らしい。
責め苦はどの宗教の世界観ともつかず違和感が拭えないが、それを抜きにしても雰囲気がおかしい。
なにか作り物のような感じがした。

違和感の正体は自分が刑を受ける段になってわかった。
受刑者がほとんど苦しんでいなかったのだ。
原因は拷問器具の老朽化だった。
針の椅子は針先が鈍ってツボ押し椅子となり、釜は熱が中まで伝わっておらず、ただの風呂に成り下がっていた。
私は激怒した。
「刑罰を受けるからにはしっかり受けるべきだ。痛みを伴わない罰など、償いにならない。自分の行動にはしっかり責任を取る。これは社会人が守るべきルールではないのか。守れないガキは賽の河原で石でも積んでろ」

思ったままに、私は拷問器具を復活させる努力をした。
まず針を研ぎ、その配置を見直した。
釜は設計からやり直し、自動温度調節装置を加えた。
血の池への血の道筋も設計しなおした。
材料工学、生体工学、伝熱工学、制御工学、流体力学。
持てる力をすべて注ぎ込んだ。

針はより激しい痛みを与え、釜はより厳しく茹で上げるようになった。流れる血はあますことなく血の池に注がれた。
また、効率化を図って受刑者の個体識別用ICタグも作った。
作業が進むにつれ獄吏からは仕事がしやすくなったと感謝されたが、同時に私への罰が減らないことを謝られた。
しかし、そんな感謝など私にとってどうでも良かった。好きなことさえできれば文句はない。
私は調子に乗って次々と修理し、罰を受け、気の向くままにグレードアップした。

拷問器具の修繕を八割方終えた頃だっただろうか、極楽が声明を発表した。
『そのエンジニアは手違いで地獄に送られた。速やかに引き渡されたし。我々はあなた方と争う意志は無いが、拒否する場合は法的手段も辞さない』

「なぜ今更」
と思ったので、牛の頭をした獄吏に聞いてみた。
「地獄の効率化を成功させ、獄吏の過労を減らした者を下に置いておくわけにはいかないらしい」
獄吏は残念そうな顔をしたかと思うと表情を改め、こう続けた。
「だが、現世で人口が増え続けている以上地獄に来る人間も増える。仕事がキツくなるのにお前を上へ行かせるわけにはいかない」
私が上に行ったら罰する人間が一人減って良いことじゃないか、と思ったのだが、地獄側は声明に反発し、徹底抗戦の構えを見せた。

かくして極楽と地獄の争いが始まった。

長期間にわたる争いの末、地獄側が勝利した。
地獄に法曹界と政界の出身者が多かった、というのが勝因らしい。弁論と根回しの勝利だ。

極楽に行きたかったが、私はこれでも良いと思った。
自分の好きなことができるのだから。
極楽に行ったとしても今と同じように活躍できるとは限らない。
地獄の底でも幸せはあるのだ。
ふいに湧いた好機が潰れてしまったのは残念だが、そうやって納得することにした。会社にいた頃と比べれば、この程度の理不尽など無いに等しい。
うつむいても仕方がない。暗い地の底から天上を仰いだ。

そこで私は見つけてしまった。
遥か上方から下ろされた、一本の妖しく光る細い糸を。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
bfs 8/26 11:51	面白い設定（『コピペ　地獄　エンジニア』でぐぐるとそっくりな設定の2chコピペが出てくるけど）と、オチの二文の落差がいい。 # 材料工学・生体工学・伝熱工学・制御工学・流体力学（ICタグを設計したのを見ると電子工学・情報工学も？）全てにおいて実用レベルで通じてるエンジニアって、そりゃ過労死もするわな。理不尽だー。 # 地獄と天国の裁判を行った第三者って誰だろう。別宗教の神様？
halcyon 8/27 0:3	受刑者が苦しまない地獄という設定、主人公がエンジニア魂を爆発させてしまうという流れに笑わせて頂きました。 「守れないガキは賽の河原で石でも積んでろ」 がどつぼ。

柚子(ゆうこ) 8/27 12:56	楽しいですね、特に地獄には法曹関係と〜が多かった。のくだりは好きです。
未草 8/27 14:44	最後の糸ってちょっとずるい。負けてもあきらめられなっかたんでしょうか？ 個人的には「私」には地獄に残ってらいたいなぁ。
葉月 8/27 20:3	なかなかに面白いです。普通にレベル高い。 文章的には可もなく不可もなく程度でうまいとは言えませんが（〜〜は〜〜したと言う文章の多用など）、大筋と時たま見せる素敵な言い回し（賽の河原で石でも積んでろは僕もツボでした）などで勝ってます。オチも好み。
黒眉 8/28 2:57	すごく面白いと思ったのですが、bfsさんの言ったように検索すると発想は他の場所から借りてきたみたいなんですね（「釜を自動温度調節装置に変える」とそちらにも書かれていたので参考にしたのだと判断しました。偶然でしたらすみません）。 私としてはこの作品の一番の良い点が舞台設定だと感じたので、オリジナルでないのは少し残念に感じてしまいました。
神代千早 8/28 12:45	エンジニア魂が魅力的です。地獄に法曹界と政界出身者が多いなど、多少のくすぐりも面白いです。好きな作品なのですが、落ちの意図は測りかねました。地獄だからといってなぜそこで蜘蛛の糸になるのかと。蜘蛛の糸をモチーフに出すのなら、そこに更なる意外性を求めたくなってしまいましたので、ここで終わるのは期待感が空振りしてしまいます。
浅間ぱんだ 8/28 23:59	なんとうまい設定、と思ったらオリジナルでないんですかねぇ。 ＞地獄に法曹界と政界の出身者が多かった この表現が大変気に入りました。
カエデ 8/29 1:5	オリジナルでないにしても、原作から大きく膨らませた文章だと思います。 針の椅子は針先が鈍ってツボ押し椅子 受刑者の個体識別用ICタグ がツボでした。
めんとすこーら 8/29 11:13	冒頭から想像するものとはまったく違う、意外な方向に進んでおもしろかったです。 地獄と極楽の話なのに変な現実感が笑えます。 ただ私の場合、最後の二文はむしろ蛇足のように感じました。 中盤まで好きなことをできれば文句ないと言っていることと終盤の統一感がないような。
to 洋灯 8/29 16:0	法的手段も辞さないとか言っときながら負けてるし。 そんでもって奥の手ですかぃ。 こんな不純な動機で蜘蛛の糸を垂らすとは・・・。
石花 8/29 20:59	技術者冥利につく話ですね。 個人的には彼にはこのまま残って魔改造の道を突っ走っていただきたい…！
evolv 8/29 22:23	読んだ瞬間パクリかと思った。それともオリジナル本人がまた書いたのかな。 糸と結びつけるのが無理やりすぎる。見つけたからいまさらなんか思うことなんかエンジニアにあるのかな？
太祖武帝 8/30 12:0	やはり最後は「糸」でつなぎましたか…。タイトルを見た瞬間「蜘蛛の糸」を思い浮かべましたが…それとは違っていて割と面白かったです。「地獄に法曹界と政界の出身者が多かった」は傑作です。 最後の落ちは ” 蜘蛛の糸 ” と無理矢理結びつけた感じがします。
作者 8/30 21:54	「作品の力だけで勝負する」ということなので、自分なりに。 コピペは参考にしています。 私はコピペのオリジナルの作者ではありません。
no price 8/31 22:16	オチの２行がかなり好きでした。 題材は「くものいと」ですが、それがかなりアレンジされて、 すばらしい作品に仕上がっていると思います
カッシーニの空隙 9/1 12:30	最後の二行は少し蛇足な気がしてしまいました。 糸が垂れてても無視しそうな気がします。

kate 9/1 13:41	どんな状況下でもがんばれる主人公が個人的に好きです。
ノア 9/2 5:14	この地獄では、刑罰を受けたあとは自由行動が可能なのでしょうか。地獄らしからぬ。 地獄vs極楽で裁判が成立するなら、極楽より地獄のほうが居心地良い空間になるだろうよ。 やっぱり「私」はエンジニアなのだから、糸の強度を確認することから始めるのでしょうかね。
やまのかめさん 9/2 5:15	冒頭を読み始めた時には地味な文章のように感じられていたのですが、「私は激怒した」あたりからどんどんノっていきました。「極楽に行ったとしても今と同じように活躍できるとは限らない」とか「会社にいた頃と比べれば、この程度の理不尽など無いに等しい」とか、涙がそそられますね。がんばれ日の丸エンジニア！ オチですが、確かにお題「いと」と無理矢理結びつけた印象もなくはないですが、地獄で生きていく決心をつけたところで極楽への糸が下りてくるというのは、最後の最後まで理不尽な状況が続いているということで、読んでいて口元が引きつってしまいました。悪くはないと思いますけどね。ただこの語り手は、仕事が楽しくて仕方がなく過労死し、地獄へ落ちてからも仕事熱心で極楽へ行きたいという欲求はまるで描写されていないんですよね。この語り手が地獄へ落ちてしまったことに理不尽さを感じていたり、楽になりたいという欲求と仕事のやりがいとの間で板ばさみになっていたりしたら、オチはもっと光ったんじゃないかなぁ。 あと、設定がオリジナルでない、という話が出ていますが、自分はそういうことには全然こだわらないこともありまして、作者さん自身の言葉で文章が書かれているのであれば全く問題ないと思っています。素直に面白かったです。
imt14 9/2 14:45	設定は凄く気に入りました。オチは…コメディではないんですか？
King Of Neet 9/2 15:2	「地獄に法曹界と政界の出身者が多かった～」のところが、うまいと思います。 オチはよくわからなかったのですが、楽しく読ませてもらいました。
ザ サン・オブ・オージー 9/2 20:53	エンジニアさんの心意気はすごいですね。 で、糸を手繰るとそこには仕事が待ってるんでしょうか？ただの極楽が待ってるんでしょうか？
ぷろじぇくと D 9/2 23:14	エンジニア魂というか、魂も冷めちゃってとりあえず仕事してる感じが仕事人間。 　文章も読みやすく、流れもよかったです。 　が、2chコピペを参考に、ってのはいかがなものかと思います。
floccinaucinihilipilification 9/3 0:24	中々楽しめました。が、元ネタがあるとの事で評価は下がる・・・、と思いきや。 確かに重要な背景設定を借りているのは惜しいところですが、元はたかだか１０行の短文。それをここまで大きく膨らませたのは素晴らしいと思います。 楽をしようとネタを持ってきたのではないことは明らかだと思います。（それだけが問題ではありませんが。） 自分も一番受けた裁判の結果が元ネタに依るところだったのは残念ですが。 一番もったいなかったのはオチがかなり無理やりだったところでしょうか。 オチさえすんなりと、もちろん面白いものであれば、元ネタどうこうも関係なく良作だったと思います。
qofhk 9/3 4:52	落ちがいい感じっすね
bfs 9/9 18:55	ちょっと自分の発言を補足。 パクリがどうこうというよりも、元のコピペ文が秀逸＆あまり知られてない、となるとどうしてもその設定が目立って評価されちゃいますよね、それってどうなんでしょうね、とかそんなことを思いました。

bfs 9/9 18:55	ちょっと自分の発言を補足。 パクリがどうこうというよりも、元のコピペ文が秀逸＆あまり知られてない、となるとどうしてもその設定が目立って評価されちゃいますよね、それってどうなんでしょうね、とかそんなことを思いました。
bfs 9/9 18:55	ごめんなさい二重投稿してしまいました。
s.o.u.p. 9/9 20:29	＞bfsさん 倫理的にまずいですね。自分でも、最低限どこかに『参考文献』のように原文を載せておくべきだったと後悔しています。そうしてさえいれば全部許された、とは思っていませんが。 これ以上醜い言い訳を並べるつもりはありません。 罪の意識はあります。罰を与えてくれる人がいれば従いましょう。 遅くなりましたが、最初のコメントで指摘してくださったことを感謝します。

ＴＯＰへ

ツルの恩返し

総合順位：4位
合計ポイント：24 Point
作者：to　洋灯
作者コメントを読む

ここは町外れのレストラン。小さいながらも静かな人気を誇っていた・・・

そんな平和な日常が俺の理想・・・。もう無理だろう。

ある夏の日だった。
「っはよーございますー」
その日もいつものように出勤し、いつものように挨拶し、いつものように着替えるべく自分のロッカーを開けた。ここまではいい。問題は、ロッカーにはヘチマがみっしり詰まっていたことだ。そのまま閉めた。
え？どゆこと？自分の目が信じられなくなった。きっともう一度開ければ・・・やっぱりヘチマ。このまま帰りたくなった。・・・ロッカーと格闘すること数分。なんとか白衣を引っ張り出し、そのまま厨房に向かった。後でなんとかしよう。
結論から言おう。後でなんとかならなかった。蔓が絡まっていて一つ一つ引き抜くことは出来なかったし、刺した包丁は抜けなくなった。仕方がないんで、あきらめて帰った。

その日の深夜、枕元にインド人が現れた。頭にターバンを巻いた老人で、胡坐を組んで空中浮遊をしている。寝直そうとしたら怒られた。
「アナタ寝るのよくないー！ワタシ、無視キライー！」　訂正。似非中国人かもしれない。
しかたなく話を聞くと、どうやらラジュ氏(仮)はヘチマの精霊らしい。ヘチマに祟られる覚えはないんですが。
「祟りチガウー。人聞き悪いネ。コレはつまり恩返しネ。」
助けた覚えも無いのですが。
ラジュ氏によると、道端で罠にかかっていたツルを通りすがりの爺さんが助けたらしい。どこの日本昔話だそれ？
「鶴チガウ、蔓ヨ。」
・・・それで、どこに俺が？
「爺さん、とても足速い。ワタシ追いつけない。そのときアナタ来た。仕方なく、アナタで我慢。」
お帰りください。
「それはダメダメ。ヘチマとても義理堅い。ワタシ、精一杯たた・・・いや、恩返しする。」
おい！今『祟る』って！　　俺の指摘を無視し、ラジュ氏は消えた。
翌日、レストランはジャングルになっていた。

その日は店を閉めてヘチマの撤去に追われた。料理長以下見習いに至るまでヘチマと格闘し、あらかた撤去。

翌日にはも

とに戻っていた。
　ところが、料理長はそれを逆手にとった。新鮮なヘチマをメニューに取り入れ、ジャングル風の内装と宣伝したところ、これが大当たり。物珍しさから来た客も多かったものの、俺らは料理に自信がある。着実に常連客を増やしていった。
ただ、朝早くから内装を整えなければならず、それがツライ。

　長く感じられた夏も終わり、秋口の頃、また枕元にラジュ氏が現れた。
「お元気か？大変残念なニュースあるよー。」
　ラジュ氏の話を要約するとこうなる。ヘチマの夏の植物であり、寒くなってくると育たなくなってしまう。つまり、次の夏までヘチマジャングルは無くなる、というわけだ。
「ワタシ、なんとかしようとした。精一杯、夏引き伸ばした。だけどもう限界ネ。」
　おぉそうかそうか。いやー残念だなぁー　はっはっは。
「ホントに残念。今、他の手段を模索中のこと。ナントカするヨ。」
　いやいやいや、お気持ちだけで十分ですから。　なんとか帰らせることに成功した。
　翌日からヘチマの量は減りはじめた。

　十日経ち、完全にヘチマは無くなった。あれからラジュ氏も現れないから、多分あきらめたのだろう。やっと安心出来たので、その日は店を締めた後にみんなで『ヘチマ開放記念パーティ』をした。といっても、実質飲み会なわけだが。相当飲んだのか、視界がグラグラしてきた。このまま帰るのは危険だし、結局店に泊まることにした。

　翌朝、とりあえず酔いは醒めたがまだグラついてる気がする。帰ろうと店のドアを開けた。そのまま閉めた。
　青い海、白い砂浜、そしてキラウエア火山があった。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
evolv 8/26 21:58	ナントカしたのはさすがです。ひもというよりも夏の作品ですね。 偽中国人ならアルは欲しかったですね（笑）こういう作品好きです。
me 8/26 23:4	最後、クスッて笑っちゃいました。 二人のやり取りとか、ビジネスに役立てちゃう主人公とか、最後とか、面白かったです。
柚子(ゆうこ) 8/27 12:41	今回の御題の関係でしょうか人身事故に纏わる内容が多く、読むのが怖くなっていましたが、久しぶりで晴れやかな気分です。との理解でよろしいのでしょうか？実は隠れホラーなんてことはありませんよね。（私は少しトロイのです。）
やまのかめさん 8/29 13:58	面白い！ 奇天烈な精霊も楽しいですし、主人公の語り口も結構楽しい。料理長もたくましくて地味に存在感。ヘチマという素材も面白い。日常生活の中に登場することがあるんだかないんだか微妙、でも「大量のヘチマ」には間違いなく縁はなく、あったらむしろ迷惑、このあたりの感覚もいい。オチまでしっかり笑いました。 お題との絡みは、糸から転じてツルということですかね。それともよくわからないラジュ氏(仮)の意図？ ちょっとお題との絡みは考えてしまったもので。
halcyon 8/29 20:19	ラジュ氏のキャラクター作りの凄さが羨ましい！ いいキャラしてます。 来たら迷惑だけど。（笑）
ノア 8/30 16:57	一晩でヘチマジャングルできるなら夏も冬も関係ないじゃないかー。 いや、冬はラジュ氏の力が低下するのかな。。 それにしても、ラジュ氏いいねぇ。

ことり 9/2 0:36	とっても面白かったです。ニマニマしながら読みました。 すっかりファンになりました。もっと読みたいーーー
葉月 9/2 13:17	これは来たなあ。面白い。テンポも良いし、発想もいい。ロッカーを開けたらヘチマがみっしり。一体誰がこの展開を予想するだろうか！　オチもまさに好み。なんかもう、全部僕好みなんですよー。足の速い爺さんとか。大好き。 ヘチマ＝糸瓜ですな。お題もばっちり保管していて、ちょっと目からうろこです。多分、探せばアラもあるのかもしれませんが、探そうという気にならないくらい面白かったです。もう、べた褒めしちゃいます。お見事でした。
bfs 9/2 19:34	軽快な語り口と、冒頭に繋がるオチが面白かった。他に言うことがないぜ。 # ヘチマって漢字で糸瓜なのな。
森　武 9/2 19:46	題材が糸瓜というところにセンスを感じます。鶴の恩返しというタイトルにも。話も、面白かったし、キャラ設定もこっていてよかったです。
森　武 9/2 19:47	題材が糸瓜というところにセンスを感じます。鶴の恩返しというタイトルにも。話も、面白かったし、キャラ設定もこっていてよかったです。
ザ サン・オブ・オージー 9/2 21:0	面白かったです！ホントうまいです。 ハワイでもジャングルレストランの繁盛を願うだけです。
やまのかめさん 9/2 22:4	あ、ヘチマって漢字で糸瓜でしたっけ。こいつはうっかり。お題もばっちりですね。
floccinaucinihilipilification 9/2 22:13	つる。上手いですね。鶴も蔓もツルとカタカナで書かれることがよくあるおかげでバラされるまで全く気付きませんでした。 序盤のテンポが少し早すぎたかな、と思います。ロッカーでヘチマで満たされているのにやけに主人公冷静だな、と。 オチが自分では理解できなかったのが残念です。作者コメントに期待しています。
kk21 9/3 2:28	糸瓜かあ、思いつかなかったです。ラジュさんのキャラと妙に冷静な主人公がいい。読み終わった後に冒頭の文章を読んで笑ってしまいました。
laket 9/3 4:53	おお、ナイスシュール。落ちは予想していたより一歩上でとてもおもしろかったです。
まじょ 9/4 18:9	うわ〜ん。 まじょコメントにも「ツルの一声」が欲し〜。
ワタシを呼んだー？ 9/4 19:20	まじょサン、三分待つヨロシ。
まじょ 9/4 20:16	おぉ、火山饅頭、おいし〜♪　ありがとー。
halcyon 9/11 4:10	作者コメント見てきました。 一言「お疲れ様っした！！」（笑）

ＴＯＰへ

救いのひとすじ

総合順位：5位
合計ポイント：17 Point
作者：ノア
作者コメントを読む

僕には友達がたくさんいたけれど、いつしかだんだん離れていった。

大勢で集まってとても楽しかったことは、全て過去の事。

今では僕だけがぽつんと真ん中で取り残されて、どちらへも行けずにいる。

みんな僕から遠いところで、わいわいと集まっているんだ。

でも鏡を見たときに、僕を見つめる心配そうな視線があるのに気付いた。

それは、おじいちゃんの目だった。

みんなと違って、僕はおじいちゃんに大切に守られていたのだ。

僕がへこたれているとおじいちゃんは大慌て。

僕が元気でいると、安心して「よし。」と微笑む。

おじいちゃんが見守っててくれるから、ちょっとさみしくっても平気だよ。

だから大好きなおじいちゃんのためにも、いつも元気でいてあげなくっちゃね。

でも、おじいちゃん。いくら元気でいてほしいからってその、ベタベタするのやめてくれないかな。

使いすぎてもよくないよ？育毛剤って。

作品印刷　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
柚子(ゆうこ) 8/26 18:27	やられました。本当に心配してしまった。　お上手ですね。

バケネコ 8/26 20:2	そういえば、講義のコラムランドと違って、iランドはこの手のコラムをあまり見かけないですね。久しぶりなのでひどく新鮮でした。 ただ、タイトルやテーマの影響で、ちょっとオチが読みやすすぎる気がするのですが…どうでしょう。
me 8/26 22:47	理解するのに時間かかりました。 つまり、なみへいさんみたいな感じってことですよね？
めんとすこーら 8/29 11:26	オチが…笑 素直に読んでいたら見事にひっかかりました。 最初にオチを読んだとき、おじいちゃんが孫（中年）の禿頭に育毛剤をベタベタつけているシュールな情景が浮かんだんですが、勘違いだったようでよかったです。
カゲヤマ 8/29 14:4	meさんではありませんが思わず波平さんが鏡の前で一喜一憂している様を思い描いてしまい、一人モニターの前でくすくすと不気味なことをしてしまいました。
to 洋灯 8/29 15:10	ナイスミスリード！見事な誘導です。 そういえば側面にもあったんですね。
箒 8/29 19:10	おじいちゃんが見守っててくれるから・・・平気だよ。←とってもけな気ですね。 寂しい話なのに何か温かいものを感じました。
evolv 8/29 21:59	おじいちゃんはたぶんさって行った友達にもやさしかったんでしょうね。 もうあきらめちゃいなよ。でも糸っていうより髪とか毛って感じですね。
EtOH 8/31 6:2	読み終わってまず、あれ？いとはどこに？　と思いました。evolvさんと同じ意見で、毛とかの感じが強いのですが・・・。 気になったのはそれくらいで、とても面白くオチにも笑わせてもらいました＾＾いやー、本当に最初はいじめられてる孫をじいちゃんが心配しているんだと思ってしまいましたよっ！うまいっ！
takuto 8/31 6:32	納得のオチでした。読みやすくすっきりした文章でしたし良かったと思います。
ひま人 8/31 18:12	ナイスオチです！ 実際に深刻な状況でないことを願うばかりです。
浅間ぱんだ 9/1 1:5	ナイスミスリードです。 しかし最初に読んだ時は、めんとすこーらさんと同じく爺さんが孫に育毛剤つける情景が浮かびましたw
白磁 9/2 8:51	＞めんとすこーらさん ナイスです。でもおじいちゃん何歳ですか。 小学生の頃、周りの子のあまりの裏表の激しさについていけなくなって友達がいなかった時期を思い出し、優しかった家族を思い出してほろりと来そうになったのですが、涙ぐむ前にオチを読んでよかったです。もちろんほめてます。
葉月 9/2 12:39	うまかったと思います。最後の一行まで、オチは予想つきませんでした。 コラムｉランドで見た一発ギャグ系では、今のところ最高かな。
King Of Neet 9/2 14:49	オチが見事です！ 最後まで予想できませんでした。 「僕だけがぽつんと真ん中で取り残されて～」ってところ、うまいと思います。
floccinaucinihilipilification 9/2 19:59	擬人化しすぎですかね。もう少し髪の毛の伏線を用意しても良かったと思います。 自分も、オチで一気に波平の顔が思い浮かびました。 そのネタを少し交えるのも面白かったかも知れません。
laket 9/3 5:49	最近、こういうの読んでないから油断してました。ほんとに「やられた！」と思わされました。いやぁ、いい仕事してますね。

ＴＯＰへ

愛しき、赤へ

総合順位：5位
合計ポイント：17 Point
作者：黒眉
作者コメントはありません。

「真っ赤な嘘」とはよく言ったものだ。サンタクロースも運命の糸も、赤いものは偽者ばかり。プレゼントだとか、運命だとか人に期待をさせておいて裏切るのだから余計にタチが悪い。――だから私は、赤という色が大嫌いだった。

世間がクリスマスムードに浮かれているこの数日間は、私にとってはただの退屈な日々であった。時間潰しに入れたバイトも、相方は先輩のおばさんか、店長だろう。代わり映えのしない日常を想像して、朝から憂鬱な気分になってしまった。
「おはようございまーす」
バイト先のコンビニに到着した。するとそこには、予想と違う光景があった。店長の横に、高校生ぐらいの男の子が立っていた。
「ああ、おはよう。この子ね、今日から一緒に働く佐伯くん。私、今日は外回りしなきゃいけないから色々教えてあげて。よろしくね」
「おはようございます！ 佐伯です。よろしくお願いします」
少し高い声で、元気良く挨拶をする。
「こ、こちらこそよろしく」
思わぬ事態に混乱して声が上ずってしまったが、かえって雰囲気が和んだようだった。私たちは程なく打ち解けて、仕事をしつつ、世間話をしつつ時間を共にした。

「私さ、赤い色って嫌いなんだよね」
客足が途絶えたところで、私はつぶやいた。
「え、なんでですか？ ボクは好きですよ、赤」
不思議そうに応える佐伯くんにむけて、私は続ける。
「サンタクロースだとか、運命の糸だとか。赤いものは偽者ばかりじゃない。……それに私赤信号によくつかまるし。赤い色に縁が無いのよね」
「赤い色に縁が無い……ですか。そんなことないと思いますけど」
「え？」
私が聞き返しても、彼は言葉の意味を教えてくれなかった。その後、客がきて話は中断してしまった。日の落ちた頃、店長が帰ってきたのに合わせて私はバイトをあがった。
着替え終わり、帰路につこうとすると後ろから私を呼ぶ声が聞こえた。――佐伯くんだった。
「一緒に帰りませんか？ ……赤い色、縁があったでしょう？」
そう言った佐伯くんは、真っ赤なパーカーを着ていた。

それからの日々は一転していた。毎年憂鬱だったクリスマスまでの毎日が、楽しい気持ちで過ごせているの

が嘘のようだった。私たちはバイトで会い、仕事が終わってからも一緒に遊びまわった。
「じゃあね、また明日！」
　元気良く手を振る佐伯くんに、私も同じように手を振った。明日は、待ちに待ったクリスマスイヴだ。……待ち始めたのは、つい最近なのだが。

　翌日、私たちはバイトを休み早朝から会う約束をしていた。私は今日のために、プレゼントを用意していた。定番すぎて笑われる事は覚悟している。それでも私は彼にマフラーを編んでいた。初めは赤にしようと思っていたのだが、なにしろ佐伯くんは赤い洋服をよく着ている。さすがにマズいと考えて、白い毛糸を選んだ。紅白はめでたいという安直な発想だ。時間もなく完成も危ぶまれたが、何とか形になった。
　待ち合わせの場所が見えてきた。遠目でも判る真っ赤な服が見えた。私は気持ちを抑えきれず彼の方へ走る。
「お～い」
　笑顔で手を振り、彼を呼ぶ。こちらに気付いたようだ。しかし、その顔は驚いたような、あせった表情であった。
「あぶない！」
　叫んだ佐伯くんの言葉を理解すると同時に、私の身体は衝撃をうけ、宙に浮いていた。

　――気が付くと、見上げた先には、赤信号。そして、それを遮る様に愛しい彼の姿が現れた。何か喋っているようだが、よく聞き取れなかった。
「……ほら、やっぱり赤には縁が無い。期待したら、いつも裏切られるんだ……」
　そう呟いて私は散らばった鞄の方に目を向けた。
　そこからはみ出した白いマフラーは、まるで運命の赤い糸のように、真っ赤に染まっていた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
me 8/26 22:54	ラスト、ちょっとショックです。 幸せになってほしかったなぁ。
SOta 8/26 23:7	サンタクロース、運命の糸の赤を「偽者」という負の象徴にとらえていたのが新鮮に感じました。 赤い服と白いマフラーのコントラスト、そして最後の閉め方が美しいです。 最後の主人公はちょっと饒舌すぎ？呆然として無意識で口にしているのでしょうか。
halcyon 8/27 0:14	裏切るのは彼の方かと予想していたので、ちょっと意外。 ラストの一行が綺麗にまとまってますね。
春 8/27 23:59	ちょ…… ハッピーエンドが好きです。
BRAZIL 8/28 11:12	タイトルが「愛しき、赤へ」だったので、ハッピーエンドで終わるのかと思っていました。 まんまと騙されましたね。
やまのかめさん 8/29 8:45	安易なラブコメかと思って読んでいたところ、オチで引っくり返りましたね。オチも事故でお話を単純に引っくり返して(もしくは壊して)おしまいというわけではなく、作品全体の主題材となっていた「赤」という色、またお題の「いと」とにきちんと絡めてまとめてあるあたり、お見事だと思います。締めの一文も秀逸。 一点だけ、この彼女、別に赤に縁がないわけではないですよね。赤に良い縁はなかったかもしれませんが、悪い方の縁はあったはずで。些細な点かもしれませんが、ラストシーンで「赤」が強調されつつ「やっぱり赤には縁が無い」と呟かれるのには違和感を覚えてしまいました。

カゲヤマ 8/29 15:0	ああ〜〜〜〜涙涙涙涙涙涙涙涙涙涙涙涙涙涙 クスンクスン。 どうして二人は幸せになれなかったのでしょう？残念でなりません。 オチが良かった…いいえ！！最悪です！酷すぎます！！（褒める意味で）
evolv 8/29 23:21	コメント見てるとみんな甘いな〜って思うんですけど、こんなバイト初日からナンパしてくる男もちょっと口説かれてホイホイついていく女も嫌だなと思ってしまう私は歪んでいるのでしょうか？
halcyon 8/30 2:14	evolvさんの言う事も最もだなぁとは思うのですが、まぁキャラクターの好き嫌いは趣旨に反するかと思いまして。 せっかくなのでそれに絡めて、前回のコメントでは書かなかった事を。 改行が多いところや「日々」という言葉でうっかりしそうになるんですけど、これってたかだか数日の話なんですよね？ どうも、雰囲気だけ読むと結構長期間の話に読めてしまいました。 二つ目の改行なんかは無くても良かったのかも（初読時、あれで数日の経過を表したのかと思ったので）。
太祖武帝 8/30 13:34	ストーリーはきれいに決まっていますね！赤に裏切られる運命でうまくまとめてきれいです。（個人的には）適度な描写だと思います。ただ、季節にあわなかったのがちょっと残念だったかなと思います。
ノア 8/30 15:29	物語全体で数日間ってのがやや急展開。バイト初日でいきなりとかになっちゃうし。 期間を一ヶ月くらいにすればちょうどいいんじゃないかな。 "縁"が"緑"に見えて無駄にクリスマスカラー
EtOH 8/31 6:11	あぁ、ほんとだ。数日って書いてある。すいません、完全に日々にのまれてました。あぁ、そんなに短い期間のお話だったわけですか。確かに、ちょっといきなり感はありますね。ノアさんの言うようにもうちょい期間を長めにすると良かったかもって思います。 どうでもいいことだけれど、ハッピーエンドってなかなか難しいな〜。
白磁 8/31 19:48	ラスト、別にバッドエンドと受け取ることもないのでは。 赤い救急車が助けに来てくれると思いますよ。 それよりも、クリスマスイブにバイトが2人も休んじゃいかんだろ、と思うのは私だけですか。
halcyon 9/1 1:32	＞白磁さん あ、綺麗に読み流してた…！ 確かに、バイトが揃ってクリスマスイブに休むのはまずい…
kate 9/1 13:30	ラストが予想外でした。バットエンドな作品好きなんで読んでて面白かったです。
浅間ぱんだ 9/2 3:15	バッドエンド好きが通りますよ。 ここまで赤に裏切られたんだから、救急車が来てもまた裏切られるんでしょうね……
葉月 9/2 12:5	きっざー！　きっざー！　佐伯君きっざー！ 確かに、「赤い色に縁がない」という言い回しは違和感を覚えますね。赤信号によくつかまってるらしいし。これだったら最後の台詞を「ほんとだ。赤には縁がある」系の台詞にしちゃったほうがまだ意味は通るかもしれません。 筋が良くあるもので、文章的にもそれほどうまくはありません。「〜〜した」で終わることが多く、テンポが悪くなっている印象です。最初の一行は面白いと思いましたが、その面白さは継続しませんでした。個人的に。
floccinaucinihilipilification 9/3 0:11	ご都合主義な展開は文字数制限的に仕方ない面はありますが・・・そこを感じさせない技術もまた筆力でしょうか。 自分はバイト中に唐突に初対面の人に「赤って嫌い」と言い出すのが滅茶苦茶だなと思いました。 ありきたりなハッピーエンドが多くて見飽きてた（講義版、アイランドと自分が書いてて言うのも何ですけど）ので気持ちの良い終わり方でした。 読者も所詮は虚構と割り切って、作者に無理にハッピーエンドを要求するのはやめた方が良いと思います。

aya 9/3 5:47	赤を偽者とする視点が面白いと思います。 最後は佐伯くんが死んでしまうのかと思ったら、死ぬのは「私」のほうだったのですね。

ＴＯＰへ

その二人、冒険屋

合計ポイント：16 Point
作者：greenbard
作者コメントはありません。

　ずいぶん長い間、近隣の諸都市を抑えて、中央集権を維持していた王都グランハムだったけれど、その体制も近年、綻びが見られるようになった。航海技術の進歩が、海上貿易を中心に据えた海洋都市の勢力を盛りたてる。時代はめまぐるしく変わっていくのである。けれども、冒険屋の仕事は変わらない。ククルーは明日からのワクワクについて考えていたし、マナムは経済学について考えていた。
　あるとき、王都グランハムの予言者が魔王の復活を予言した。世界征服を企む魔王とその一味の復活。復活というからには封印の話があるのかと言えば、そんな話は聞いたことがない。突然降って湧いた話に、おそらく誰もが白けていた。それでも、ククルーは胸を膨らませたし、マナムは魔王退治の報酬について思案しただろうと思う。
　けれども、ワクワクとか報酬という薄っぺらな感情をよそに、魔王は本当に復活して、あっという間に周辺都市へ侵攻し、各地に壊滅的なダメージを与えて回った。これは王都グランハムにとっては千載一遇のチャンス。領主シェザードはたちどころに周辺都市と対魔王同盟を結ぶと、たちまち、同盟主に躍り出た。彼の主導のもと、魔王との共同戦線が張られ、事実上、海路はすべて王都グランハムの軍隊が掌握していた。ククルーは正義のために、マナムはお金のために。冒険屋として王都グランハムにやってきて、魔王との戦いを志願した。
「ねぇ、ククルー。私たちって、みんなを出し抜くべきだと思うのよね」
　マナムはそう切り出した。
「私たち二人で魔王を倒そうじゃないの！」
「うん。それってとても格好いいよね」
「うーん、そういう話じゃないんだけど」
「じゃあ、どういう話？」
「地位と名誉でうっはうは」
「それって『英雄』ってこと？」
「うーん。まあ、どっちでもいいや」
　二人はするすると戦線を離脱して魔王の本拠地に向かう。魔獣たちをゴウゴウと焼き尽くし、巨大な怪物たちもバリバリと斬り飛ばし、あっという間に魔王の部屋の門。
「開けるよ」
「私たちって最強じゃん」
　魔王は真っ赤なドラゴン。鼻から煙を吐き出して、口から毒を撒き散らし襲い来る。ククルーの青い剣が閃き、マナムの手からは赤い稲妻。轟音。爆発。怒号。
「ゴァアアァァアッ！！」
　やがて魔王はものすごい咆哮をあげて仰け反り、それから息絶えた。
「何だ、大したことなかった。魔王のクセして、ただの化け物だったじゃないか。もっとこう、何だろうな。『よく来たなー、冒険屋風情が。ふはははは―』みたいなロマンが欲しいよね。」
　ククルーは剣にべったりついた血をふき取り鞘にしまう。
「そうね」

「あれ？　珍しく賛同してくれるんだ？」
「うん。こんなうすのろの怪物が、魔王軍をまともに指揮できたとは思えないから」
「ん？」
　マナムは人差し指をつん、と立てて、悪戯っぽく微笑んだ。
「つまり、誰かが裏で糸を引いていたってこと」
「ん？　ん？　どういうこと？」
「誰が一番得をしたのか。ククルー、今からグランハムに戻って、シェザードを脅迫しましょう？　きっと彼、叩けば埃が出るわ」
「え？　え？　結局、どういうことさー！！」
「つまり、あなたは悪を挫く正義の味方、そして私はお金持ちってことよ」
　ククルーは新たな冒険の予感に胸を躍らせ、マナムは取らぬ狸の皮算用。時代はめまぐるしく変わっていく。それでも冒険屋の仕事は変わらない。悪がそこにある限り。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
bfs 8/26 10:56	冗長でない世界観説明と、適度なオチ。読みやすく飲み込みやすい、ショートショートのお手本みたいな作品。 素直に面白かったです。 # このスレはのびる。 ## ちなみに剣士の女の子の脳内イメージは魔法使いの杖を持ったあの娘です。名前似てるだけなんだけどな！
バケネコ 8/26 11:52	こんな短いなかで世界観説明とキャラクタ描写を済ませておきながら、しっかりエンターテイメントしていてかつオチまで綺麗にしめてくるというのは、たぶん見た目以上に難しいことだと思います。その構築力に脱帽です。ところでマナムかわいいよマナム。
八剣 8/26 23:0	この二人がどれだけ強いんだかわかりません。 さくっと何の証拠もなくシェザードを脅迫するなどといっているけどそこそこレベルの冒険やならあっさりと殺されることでしょう。
白雨 8/27 13:48	敵をあっさりと倒している所を見ると、相当二人は強いんでしょうが、冒頭部分にそれに関する記述がなく、拍子抜けしました。 そんなに強いのならもっと簡単に世界に影響を及ぼせる（お金もすぐに手に入る）だろうし、ただ単に魔王が弱いだけだったら他の人間でも倒せただろうし。「力はあるが不遇」みたいな描写があると良かったんですけどね。
evolv 8/27 22:11	私には少し展開が速すぎてついていけない感じがしました。オチは確かにわかるんですけど、なんかシンプルすぎて。 悪はマナムってことでいいんですかね。
神代千早 8/28 20:39	「彼の主導のもと、魔王との共同戦線が張られ」のところで、悪い領主が魔王と共同で周辺都市の上に君臨したと読んでしまったので、そんな悪い領主の元に共同経営者の魔王を倒すとか言う冒険屋が現れるなど途中で何の話やらわからなくなり、でも黒幕は領主っぽくて最後はやっぱり領主が悪いのかという話になってしまいました。 そういう私自身の読解力の問題はさて措いて、字数の制限があるせいか、無理矢理詰め込みすぎではないでしょうか。ひとつひとつのシーンがやけにあっさりした雰囲気に感じたので。
バケネコ 8/28 21:28	うーん。 個人的には、展開の速さや内容の濃さにも、結構魅力を感じるのですが……皆さんのコメントを見る限り、あまり一般的な感じ方ではないのでしょうか？　テンポの速さや主人公たちの異常な強さは、「ライトノベルと言えばファンタジー！」だった時代を思い出させてくれるので、僕は実に好きなのですけれど。

bfs 8/28 21:58	> バケネコさん ライトノベルとかファンタジーが好きな人には世界観の脳内補完がしやすい、ってことなんじゃないでしょうか。ソース俺。 確かにそのバイアスを外してみると、話のスジは結構ありきたりな気もする。でもキャラクターがちゃんと書けてて俺は好きですけどね。 # 評価者が素人の場合、どうしても評価基準に『共感』っつー値が入るんだよなあ、とか思った。 # それを外すのはすごい難しいんだけど。自分もちゃんと出来てるとはいえないけど。
柚子(ゆうこ) 8/28 22:56	ククルーは少年でマナムは少女と理解しましたが、間違っているでしょうか？そして、もう少し年長かもしれない　と考えなくともいいことを考えてしましました。「　　」の声のイメージがなかなk絞り切れなくて
神代千早 8/29 9:1	bfsさん 「キャラクターが書けている」というのは、類型化が出来ていることと解釈していいですか？間違っていますか？大塚英志が「キャラクター小説の書き方」でそんな話をしていたように思います。 世界観を形成しやすいあたりの話は同氏の「物語消費論」に依りますか？「世界観の脳内補完がしやすい」も類型化しやすいという意味でしょうか？だとすると、このテーマで書けば何でもOKになってしまいますが。たぶん私の解釈が間違っているのでしょう。 もう一点、「素人」は「ライトノベル慣れしてない人」と考えていいですか？ライトノベル業界では作品に共感を寄せるか否かはあまり重要ではなくて、キャラクターが書けていたり世界観がしっかりしているという技術的な要因が重視されるということで良いでしょうか？ 個人的な趣味としてはヒロイックよりエピックファンタジーの方が好きです。 作品の個人的な感想としては、ドラゴンの価値が暴落しすぎです。 ああ、あのころドラゴンは強かった……（あの頃っていつだ？）。
めんとすこーら 8/29 11:21	キャラクターの説明のための文章を別に作らず、ストーリー中の描写や台詞だけでキャラづけをしているのは好みです。 すでに言われてますが、まさにライトノベル！という感じですね。 文の書き方といい、話の流れといい、下手なライトノベルを読んでいるような気持ちになりました。
greenbard 8/29 12:38	＞神代千早さん 「類型化」すればうまくキャラクタは書けると思いますが、キャラクタがうまく書けているから即それが「類型化」だというのは乱暴だと思います。むしろこの作品の場合、「デフォルメ」という言葉の方がしっくり来るとボク個人としては思います。「類型化」というと藤子Ｆ不二夫とかあだちみつるみたいなパターン分けを連想してしまいます。 それからbfsさんの言う「素人」というのはラノベとは無関係に「作品評価の素人」だと思います。作品の構成とかテーマ設定、シーンの切り取り方、文章表現、狙いとか。そういうのを評価する前に、好き嫌いとか共感できるかできないかとか、そういう軸が入ってしまうということに対する揶揄および自戒だと受け取りました。ボク自身もその点はいつも悩みます。ただ、読者側の共感のレヴェルでの評価であったとしても、作者の側からすれば「ああ、こういう文章が好まれてこういう文章は嫌われるのだ」とか、だいたいこの辺を狙っていけばいいのか、とか。そういうことは分かるので。充分、それでコメントとしての役割を果たしているのかな、と。何しろボクたち自身は評論家じゃないんだから、一読者として思ったところを述べればいいのだ、と。あ、途中からbfsさんへのレスポンスになってしまいました（苦笑）。
やまのかめさん 8/29 13:36	「魔王との共同戦線」は「魔王との戦いの共同戦線」の間違いでしょうね……それともオチのカラクリをさりげなく見せていた？ テンポの良さはこの作品の持ち味ですね。軽めの冒険活劇の粗筋紹介、という印象でした。そういう位置付けとしてならかなりいい感じかと思います。個人的な好みで言えば、台詞を無くして本当に冒険の筋を追うだけにして、「意図」をテーマにさらに二転三転させたら楽しそうだなぁ、なんて想像しています。 主人公二人の台詞付きだと、この二人のあまりのノリの軽さ、碌な準備もなしに無茶な方向に突き進んでいること、しかもそれで物事がうまく回ってしまうこと、と、展開の安易さが顕になってしまっている気が。

バケネコ 8/29 17:54	＞神代千早さん bfsさんのコメントの内容については、もちろんbfsさんに聞かなければわからないわけですが、神代千早さんの解釈は多分にbfsさんの意図とすれ違っている気がするので、僕なりの解釈を（余計なことかもしれませんが）述べさせてください。 bfsさんの発言にあった「キャラクターがかけている」という発言は、「キャラクターがたっている」という意味での発言だと思います。つまり、コラム内でのキャラクターの性格が曖昧でなく明確にデザインさているということであり、コラム内でのキャラクターの性格が首尾一貫しているということであり、またその性格が十分魅力的である、ということを、bfsさんは述べたかったのではないでしょうか。 また、「世界観を補完しやすい」というう点ですが、これは類型的云々よりも、むしろ共通認識の有無についての言及かと思われます。ここでいう共通認識といううのは、具体的にいえば、神代千早さんがおっしゃられたような「ドラゴン＝強い」とか、「芥川＝睡眠薬」とか「ツインテール＝ツンデレ」といった類想のことです。付け加えれば、この共通認識の有効範囲が狭すぎると内輪ネタに、やや狭いとあまり評価されないコラムに…、となっていくのでしょう。（ちなみに上記の僕の発言は、このコラムの有効範囲は、もしかして僕の認識よりも狭いのだろうか？、という意味での発言のつもりでした）。 それからですね、 ＞ライトノベル業界では作品に共感を寄せるか否かはあまり重要ではなくて、キャラクターが書けていたり世界観がしっかりしているという技術的な要因が重視されるということで良いでしょうか？ …という発言もありましたが、bfsさんのいう「共感」というのはあくまで個人的なもので、神代千早さんのいう「（不特定多数の）読者の共感」とは別のものであると思います。つまり、bfsさんは、「個人としてではなく、客観的な立場からコラムを評価すべきだと思うのだが、難しい」といっているのであって、決して「（不特定多数の）読者の共感」を無価値視しているのではないと思います。むしろそこを重要視しているからこそ、個人的な共感からコラムを評価することに危険性を感じているのではないでしょうか。 長々述べましたが、この部分に関しては、要するにgreenbardさんと同じ意見ですね。 最後に、神代千早さん発言中に大塚氏の著書が出てきましたが、大塚氏は決して「類型化＝没個性化」という構図を立ててはいなかったはずです。むしろ、オリジナリティーを出すために類型化をつかうのだ言っていたはずです。たしか第一章から明確にそう言っていた記憶があります。（僕は彼の主張があまり好きではないですが、）それでもその文脈で「キャラクター小説の作り方」を持ち出すのはちょっとひどいのではないでしょうか。
bfs 8/29 19:5	# 大塚英志はサイコをちょっと読んだくらいです＞＜ # ていうか評論本はほとんど知りません…ついでに言えばライトノベル以外の小説もあまり読みません…書籍以外の文章はしばしば読みますが…。 『類型化』の定義がよく分からないので、そこは置いておくことにします。『典型的』って意味かな？ と思ったら否定されてるしw（それともバケネコ氏のコメントにある主張は『パーツは既に用意されてるから、組み立てにオリジナリティを見出すんだ』って意味なのかな？） ・キャラクタ 『典型』を書けてるからイメージしやすい、という意味です。なんでこんなこと言ったかっつーと、他にこういったキャラクタの書き方してる人がいないから、こういうのもいいなあ、と思った次第です。 ・世界観 こっちも同様です。ていうかファンタジー掌編（『典型』を『予備知識』と呼び変えたらファンタジーに限らずほとんどの掌編はそうだと思うのですが）はその手法を存分に使わないと何も書けませんしね。 # 『物語消費論』を知らないのでとりあえずぐぐってみたんだけど、「共同体を成り立たせるための『大きな物語』が崩壊しちゃったかから、人々は勝手にそこから派生・分化させて、もしくは様々な出来事とミックスして、言わば『小さな物語』を作っては捨ててまた次を、と共同体へのアクセスを体感している」って話、でいいのかなあ。でもそれだけの解釈だとそっからの繋がりが分からない。ちなみに『小さな物語』は完全に自分定義語。 ・素人 まるで自分が素人でない、といったような書き方をしてしまったのが相当にマズかったみたいです。ごめんなさい。 意図としては、greenbard、バケネコ両氏が述べたとおりです。

テキトーな言葉遣いしたら思わぬ方向に解釈されて焦る、というよくある話。ごめんなさい。
でもこういう寂れがちな場だと議論活性化のために敢えて（いや今回は敢えて、じゃないけど！）ラジカルなこと言うのはアリなのかなあ、とか。
×このスレはのびる　○このスレはわしが育てた

神代千早
8/29 19:35

greenbardさん、バケネコさん
この話に描かれている人物は、非常に突出した特徴(剣を取れば無敵だけど思慮に足りない人と、金銭的価値を判断することにかけては頭の回転が速い人)を与えられていますよね。そのような方法は、他の作品のあんな登場人物といった形で読者のイメージを喚起しやすく、それを指して「類型化」と言っています。例えば前者は戦隊物の赤い人によくいそうだとか。そういう形でのイメージ喚起が上手であるという意味で「キャラクターが書けている」ということなのかなと。それとも非常にオリジナリティーあふれるキャラクター造形という意味で「キャラクターが書けている」なのでしょうか？

バケネコさんの解釈は私の言う類型化と異なるのでしょうか？現実の人間は概ね矛盾を抱え、それが表にも現れ、なかなか「この人はこうである」と言い切るのが難しいにも拘わらず、多くの類型化が成されます。それは他者の理解を促進したいという想いの表れだとは思うのですが、キャラクターの性格がデザインされて、首尾一貫していると感じるのは、類型化の成せる技ではないかと。理解しやすくなるので。おそらくこの作品に対して主人公の特徴を挙げると、たぶん最初に私が挙げた特徴で集約して読む人が多いのではないかと思うのですが、これは類型化とは別の概念ということでしょうか？

世界観の方では、バケネコさんは「類型的」というよりは「共通認識の有無」「類想」であるとおっしゃているように読めましたが、両者は全然違う概念なのでしょうか？読者側のこういう場合はこうであるという一種の決めつけを頼りに作品（キャラクター）を組み立てるという点で、同じに思えてならないのですが。
ううむ。同じ内容を違う言葉で表しているだけに思えます。まだすれ違っているのかもしれません。

大塚氏の著書は、漫画でもそうですし、ライトノベルでもそうですが、キャラクターの性格付けの装置として類型化が行われており、逆にそれを利用する方法についての話だったように思います。記憶違いでしょうか。これは本棚あさって読み直してみます。

当初の質問の意図は、bfsさんが評価しているポイントはどこにあるのかを見極めたいというところにあり、類型化をうまく使いこなしているとして本作品を評価しているのか？というものだったのですが、どうもお二人の反応ではそうではない。とすると、直接的に評価ポイントはどこですかと伺ってみれば良いでしょうか。
お二人も本作品を高評価されているようですが、例えばバケネコさんがおっしゃっている「ライトノベルと言えばファンタジー！」で思い出す作品とはどのようなものでしょうか？こういうのが好きだというのがわかると、皆さんが評価している理由がわかるのかもしれません。ロードス島戦記なら昔読んだことがあります。スレイヤーズは名前しか知らないので、友人の話からドタバタ喜劇だと認識しています。

共感についてはお二人はbfsさんご自身の内省という見方ですか。この作品は好きだけど、それは自分の共感に過ぎないから、評価が曇るかもしれないとご自身で思ってらっしゃるという解釈ですね。なるほど、了解しました。
いえ、私自身は「客観的である」というのは一種の妄想だと思っているので（極論ですよ）、好き嫌いで評価して全く問題ないとは思いますけれども。

応酬があると面白いですね。

神代千早
8/29 19:44

すいません、エディタで書いている間にbfsさんのコメントが書き込まれていました。bfsさんのコメント読む前に書いたものです。
bfsさんのコメントで、bfsさんが評価されているのは典型的なキャラクター、世界観をうまく利用して馴染みやすい物語を形成した点にあると読めました。共感はできませんが理解できてすっきりしました。ありがとうございます。
ちなみにお勧めのライトノベルは何ですか？（もう年単位でライトノベルから遠ざかっていますが、R.O.D.とダブルブリッドの最終巻は読んでおきたいと常々。グインサーガをだらだら読み続けているので遠ざかってはいないんだろうか）。
このスレッド("thread" もいとですな)はだいぶん活発になりましたね。

halcyon 8/29 23:2	スレッドの流れをぶった切るかもしれませんが、まだコメントを付けていなかったので普通に感想を書きます。 皆さんのコメントも見ていますが、もう少し上手く消化してから談義に参加しようかと… ファンタジーに全く触れた事の無い人というのは現在少ないと思います（実際にライトノベルやゲーム、漫画に触れていなくても、剣と魔法の世界という言葉を知っている人もかすってはいる＝触れている、という定義付けでの場合）。 そういう意味で、解りやすい作品だな、と思います。読者をあまり選ばない、と言えばいいでしょうか。 ただ、例えばキャラクターの性別がはっきりしない、であるとか、 冒険屋についての記述が無いところ等が引っ掛かりました。 脳内補完に任せたのか、文字数の関係で削ったのかは判りかねますが、 世界観の設定がはっきりとあるのにそこが曖昧なのはバランスが悪い感じがしましたね。
bfs 8/30 1:9	「客観的」が幻想なのはその通りなんだけど、純粋な「好き嫌い」で評価をつけるのはなあいう気が。このイベントが何を目的にしてるのか、ってのを考えると、やっぱり技巧なものを評価基準にすべきなのかなあ、と思いまして。 そりゃ言ってしまえば『技巧』なんてのも明確な基準があるわけではなく、例えばさんざか叩かれた「恋空」だってある意味では非常に優れた『技巧』を使ってますしね。 とりあえず自分が（今回の作品群の中で）この作品を評価してると言ったのは、読みやすい日本語、容易にキャラクターの想像できる台詞回し、きちんと話の流れを作ってオチをつけてるところです。もちろん脳内補完された世界観に寄るんですが、うまくそういうイメージを引き出すやり方、ってのは技巧の一つでしょう。 ところで自分のライトノベル遍歴はほとんど『ブギーポップ』以降なので、こういう世界設定は違うとこから来てる気がします。『ロードス島』も『スレイヤーズ』も『オーフェン』も読んでません。 それにしてもオススメって難しいですね。ジャンルが狭いなりに方向性が豊富なので迷うところです。いやテメェが凄い好きなの上げろって言われたら川上稔『都市シリーズ』、谷川流『学校を出よう！』、水瀬葉月『僕と魔女式アポカリプス』を迷わず挙げますが。全部続きが出ねえorz 最近のだと田中ロミオ『人類は衰退しました』は結構万人にオススメできるかもしれません。巻ごとに毛色が変わっていく様がステキなユルい近未来SFです。 # 主張が二転三転してる気がしますがしゃべくってるのは気にしないことにします。 # ちなみに登場人物は両方とも十代の少女だ。俺の脳内ではそういうことになっている。
bfs 8/30 1:18	「しゃべくってるのは気にしないことにします」って何だ。 正しくは「しゃべってるのは楽しいので気にしないことにします」です。ごめんなさい。 # いい加減BBSに行けと言われそうですね。
バケネコ 8/30 10:51	＞神代千早さん 応酬を面白いといっていただけて幸いです。上記のコメントをするとき、僕のコメントのせいで気分を害されてしまったらどうしようと、若干不安だったもので。 僕の「類型化」に関する認識は、たぶん神代千早さんと概ね同じです。ただ、神代千早さんのいう「類型化」というのは読者側の行為ですよね？　なのに、僕は「類型化」を作者側の行為として認識してしまっていたのです。それが原因で、神代千早さんのコメントを誤読してしまっていたのかなと思います。そして、僕の使った「類想」という言葉が、神代さんの使った「（読者側の行為としての）類型化」とおそらく同じ意味です。また「共通認識の有無」というのは、その「類想」ができるか否か、という意味合いで使いました。つまり世界観云々に関しては、僕が誤読の果てにちぐはぐなコメントをかえしてしまったわけです。すみません。 ちなみにどうでもいい話ですが、僕の読書の原体験は、カイルロッドシリーズであり、オーフェンシリーズであり、ブギーポップシリーズです。ただ、「ライトノベルといえばファンタジー」発言の際に思い描いていたのはスレイヤーズですね（このコラムの雰囲気がスレイヤーズと似ていたためです）。実を言うと、最近はちょっとライトノベルからは遠ざかり気味なのですが、猫の地球儀とかの秋山瑞人作品は、いまだによく読み返します。あと古橋秀之とか桜坂洋とか。いやほんと、掲示板に移れといわれかねない内容で申し訳ない。
太祖武帝 8/30 11:41	読みやすい作風でよかったと思います。説明もわかりやすかったです。ただ、主人公の２人の設定がやや無茶なところがあるような気がします。（物語だからいいとは思いますが…） 「領主を脅迫」ってどうやってやるんだろう？手紙で脅迫文を書くのかな？

神代千早 8/30 14:24	バケネコさん こちらは気分を害していませんが、私の書き方が厳しく感じますか？ 尤も、特に相手の気分を害することを目的とするのでなければ、単に意見の違いによって相手が気分を害するのは構わないと思いますよ。意見が異なるだけで気分を害するならそれは発言者にとってどうしようもないですし。とまた極論を言ってみる。 私の「類型化」は作者さんが意図的にする物です。作者さんが、「こういう方向付けのキャラクターを印象づけるためにはどのような特徴を備えさせればよいか」と考え、読者を誘導するテクニックが、bfsさんにとって評価ポイントだったのか？ということなので、読者の類型化をコントロールしているのはあくまでも作者さんという立場です。 まあ、議論の方向性に影響を与えないのでどちらでもいいと言えばどちらでもいいですが。 bfsさんの評価基準、技巧自体を評価すべきという理想ももちろんいいと思いますよ。でも、何とも言い難いけど面白いという作品も世の中にはあるわけで。そこが好き嫌いという形になってしまうのも認められればいいんではないでしょうか。 bfsさんとバケネコさんには書籍の紹介をありがとうございます。私はもうちっと（あるいはたくさんかはあれですが）古い世代のようです。都市シリーズとブギーポップしかわかりません。 私は都市シリーズとブギーポップは読みましたが、文章表現になじめず、両作品は普通の評価です（損したとは思わないが、お勧めとも言い難い）。川上氏は世界設定には面白い物を取り入れているのに、表現が投げやりな印象を受けてしまったもので。 「上昇加速の残存Gにより、からだが上に飛びそう」（慣性のこと？） 「慣性航行でいきなりの後退」（大気中で慣性航行した挙句いきなりの後退は……） 「勝負を決めるのはごく単純に総合力のみ」（総合力ってなんか投げやりな……単純じゃないし） （川上稔「機甲都市 伯林５巻」より） そういう表現が難点でちと敬遠してしまいました。 掲示板移動については、この作品を理解する上で、高い評価をする人はこういう作品を念頭に置いているということを示すために、ここでこういう雑談もいいのではないかと思うのですが。運営者から文句言われたらやめましょう。
バケネコ 8/31 8:13	＞神代千早さん いえ、僕は議論するのは大丈夫なので、問題ないです。ただ、この手の定義論争じみた議論を嫌う人もいるので、不安だっただけです。 ＞私の「類型化」は作者さんが意図的にする物です。 うう、ということは、まだ僕は勘違いしているわけですね。活字のみで細かい議論をするのは、やっぱり難しいです。まあ、本コラムについての議論としては十分に納得できたと思うので、うん、まあいいですよね！…と放り投げてみる。 確かに上遠野の文は僕も読んでて辛いです。味はあると思うのですが。
bfs 8/31 11:44	上遠野浩平ほど文が読みやすいライトノベル作家も珍しいんじゃないかなあ、とか思ってた俺が通りますよ。 文章表現自体はそこまで気にしない人間なんだけど、川上稔が非常に読みにくいのは認める。 いや文体がブレないって意味では上手いとは思いますけどね…。でもいいんだ俺はあの人の本大好きだからついていくんだ。
ノア 8/31 20:2	長い、そして詰め込みすぎ。 まぁ、小説を丸ごと一つ1500字に収めようとするなら、それは必然的に起こることだが。 小説を1500字に詰め込むことに、とりあえず成功した作品。という感じ。 かわいいタイトルが欲しいなぁ。。
no price 8/31 23:42	ものすごい読みやすい物語だったと思います。 読後も非常にすっきりとした気分にさせられます。 良いコラムだったと思います。
qofhk 9/1 2:3	絵本にできそうな感じっすね＝わかりやすく、おもしろひ、なんかサラサラしてる みなさん難しい話をしてますが、最終的に評価は好きか嫌いかでいいんじゃないっすか？
kate 9/1 13:23	テンポが速くて読みやすかったです。
s.o.u.p. 9/1 20:11	展開が速いのに舞台設定とオチが頭に入ってくるのは素晴らしいですね。 でも、ミステリーっぽいオチの割りにはドラゴンを「魔王」と書いてしまっているあたりが少し引っかかりました。 本当に少しですよ、すこーし。

Albino 9/2 0:15	うーん、あっさりしてていいけれど、ここまで典型的だったらバトルも典型的に技名叫んで…とか そういうのを少し混ぜるだけでも違うと思う。 周りが引かれるだけに、どうしても気になる。 あと、やっぱりこれだけ背景がしっかりしてるなら ククルーとマナムも一行でいいから説明ほしかったなと。 きっと語らせたら語れるだけの力量はあると思う。 テンポはすばらしく、読みやすい文章でした。 以下、qofhk氏の回答にはなるのかな？ ちょっと問題になっている（？）共感どうこうだったら、自分は共感しないほうに入る。 個人的には、話を書く上でどんなキャラも見せ場はあるように、と心がけているため いわゆるザコとかそういうのは作りたくない。あっさり倒されたくない。 だから、あまりにもあっさり魔王が倒されたのはものすごく引っかかった。 （自分の場合この手の話であまり勇者視点で書かないせいもあるが） でもそれはそれ、これはこれ。 ただ好きか嫌いかってだけで見ても、それは「話」が好きかであって 「文章」の評価じゃないんじゃないか、と思って自分はコメントを打ってる次第。 割と、表現とかそういうのも言われてる中、話だけでなく文章も重要なんじゃないかと。 …まったくの素人が言ってることなのでほんの少しも参考になりませんが。
葉月 9/2 3:40	ある程度は仕方のないことだと思うのですが、説明パートと物語パートに分かれて、かつ説明パートが詰まっているとどうしても退屈になりますね。あまり明確な分け方をせず、物語の中に舞台説明を挟めるとステキでした。まあ、わざとらしさなくやるのはすごい難しいことですけど。 やりたいことはわかるのですが、それにはやはり文字数が足りなかったかなあ。世界を書きたいか、二人を書きたいか、絞ったほうが読んでいて楽しかったかも。かも。
kk21 9/3 1:18	1500字でここまで書けるのはすごい！ゆえにちょっと詰め込み感はありますが、２人のキャラクターもわかりやすい感じなので速い展開でも十分楽しめました。
laket 9/3 4:58	＞「つまり、あなたは悪を挫く正義の味方、そして私はお金持ちってことよ」 最後のセリフが2人の関係を象徴しているみたいで、気持ち良かったです。

ＴＯＰへ

自然と向き合うということ

合計ポイント：14 Point
作者：神代千早
作者コメントを読む

今日は私が科学を志すきっかけとなった出来事をお話ししましょう。

皆さんは「アリグモ」という虫をご存知でしょうか。アリのようなクモ？　ご名答。ハエトリグモという、巣を作らずに歩き回って獲物を捕食するクモの仲間です。このクモは実は大変身近に生息していて、ほぼ日本中で見ることができます。ですが、見たことがある、そういう人はむしろ少ないでしょう。
このクモはクロヤマアリに大変よく似ています。昆虫であるアリは６本の足を持っていますが、アリグモが見事な点は、クモの一種なので８本の足を持っているにもかかわらず、一番前の足をいつも頭の上に掲げてアリの触覚のように似せているので、非常にアリと見分けがつきにくいことです。これは、他の生物に形を似せる擬態の見事な例と言っていいでしょう。アリグモがなぜこのような姿かたちを取るに至ったかは議論がありますが、アリの姿を真似ることで、アリを苦手とする動物から身を守るためという説が有力です。アリというのは肉食で、自然界ではなかなか獰猛な昆虫なのですよ。ですからもし見かけていたとしても、普通のアリと見間違えて意識に残らないのではないかと思います。

さて、私は小学生のころこのアリグモの存在を知り、実際に見てみたいと思いました。そして家の近くの公園にいたときです。アリのように見えるけれども、どうもぴょこぴょこと妙な飛び跳ね方をする虫を見つけました。アリとはまるで歩き方が違います。じっくりと観察すると、頭の形がアリとまったく異なるのがわかりました。そう、アリグモです。喜んだ私は早速捕まえてイチゴ用の透明なパックに入れ、学校に持って行きました。そして級友に見せてあげたのです。
しかし誰もそれをクモの一種だとは思いませんでした。「それはただのアリだよ」と言うのです。先生にも見せましたが、先生も同じ意見でした。そこで私はパックを叩いてアリグモを落とし、アリグモが糸を引いてパックからぶらさがるのを見せました。アリグモはクモの一種なので、巣は作りませんが糸は出すのです。それでも誰もがそれはアリだと言って譲りませんでした。

そのとき私はこう思いました。
「僕にはみんなに見えないものが見えるのかもしれない」
もちろん今考えればそれは小学生の思い上がりに過ぎません。むしろ「みんなが見ようともしないものを見る癖があるのかもしれない」と言った方が真実に近いでしょう。
私はもともと昆虫が好きで、クロヤマアリの観察もしていました。だからほんの少し歩き方が違うのも糸を吐く虫だというのもわかったのですが、級友たちはアリもしっかり観察したことはなかったかもしれませんし、もしかしたらアリでも糸を吐くと思っていたかもしれません。
とはいえ、私も実際のアリグモにめぐり合うまでは、知識としてそういう虫がいることは知っていても、どう歩くとか、どう糸を吐くとか知っていたわけではありません。そこでは自然をじっくりと観察し、違いを見出す忍耐力が必要だったのでしょう。ですからこの体験は、自然に向かい合う姿勢をひとつ教えてくれたように思います。

今、自然科学を学ぶ立場になって言えるのは、じっくりと観察し、これまでとは違う物事があるのかもしれ

ないと疑い、疑って、疑って、それでも疑いきれないものが残るときに、自然はその真理をほんの少しだけ見せてくれるということです。
　自分以外の誰も気に留めないかもしれないけれど、自分だけは自然の貌の一面を見せてもらえた、その満足感を味わいたいがためにこれからも科学を学んでいき、誰も気に留めなかったとしても、自然が興味深い貌を持っていることを伝えていきたいと思うのです。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
バケネコ 8/26 11:58	正統派だ！しかも綺麗なお話だ！ 最初は小難しいはなしかななんて思ったのですが、挿入エピソードもおもしろく、また話の進め方に無理がないので、非常に読みやすかったです。アリグモ…はじめて知りました。
柚子(ゆうこ) 8/26 16:13	自分の才能に自分で気が着き、その道を進む　馬齢を重ねているわたくしからは羨ましい限りです。その道筋が素直に理解できました
森　武 8/27 19:43	科学の原点という感じがします。科学が好きな人でも、どうしても忘れてしまうものなので、自分でもちょっとぎくってするとこがあります。書き方も非常に読みやすかったです。
白磁 8/27 21:0	アリグモの例だと「自然科学」としての自然でなく、動物や植物といった限定された範囲の「自然」を思い浮かべやすい点が気にかかりました。 （もちろんそれが作者の意図なら構いませんが） 普通に暮らしてる人って、理系の人が何をしてるのか、というか 「科学」と「自然科学」の違いすら結構知らないんですよね。 そういう人にでも、今作者が興味を持ってることについて触れられるようにまとめたら、もっと良くなるように思いました。
カゲヤマ 8/29 14:13	ちょっと話がずれますが私はただの黒いクモの背中の毛を絵の具で赤く塗り、友達に見せたら 「セアカゴケグモだー！」といってものすごく怖がられたことがあります。 ちょっと大きめの蜂を見たら 「あ、スズメバチだ！」といって騒ぐ人もいるように、普段はあまり観察眼が働かないものなんでしょうかね。 自然に限らず世の中の構成要素がそのような貌を持っていることはたくさんの人に知ってもらいたいことに大いに共感します。 まあ、私の場合はその興味がもっぱら工学系に向いているわけですが…
やまのかめさん 8/29 19:35	語り口といい話の展開のさせ方といい、うまい文章だと思います。語り口はとてもゆったりとしているのに、冒頭から引き込まれてしまいました。「糸を吐くアリに見える」という点がもっと話の中心にあれば、お題の活かし方という点でもなおよかったと思います。 ただ締めの一文については冴えない印象が。長くて締まらない上に、あまりに優等生的・模範的な内容でつまらないとも思ってしまいました。この作品は語り手が科学を志すきっかけを話している文章ですので「科学を学んでいき」となるのは仕方がありませんが、「～伝えていきたいと思うのです」の方は余計ではありませんか？ 作品内容自体、語り手が友人達に発見を披露する場面はありますがこれは単に一つにエピソードとして紹介されているだけで、語り手自身のアリグモとの出会いとそこから自然に向かい合う姿勢を教わったという内容が中心ですし。
箒 8/29 19:50	幼い子が色んな疑問をもって「これ何？」「なんで・・なの？」と盛んに親に聞きながら成長していくそれに似てますね。心が洗われました。
halcyon 8/30 2:3	印象としては、お話と言うか、 例えば新任の先生が自己紹介で簡単なエピソードを紹介する、そういう場面のように思えました。 あるいは第一回講義の導入。

ノア 8/30 18:28	結局彼はアリグモが蜘蛛だと皆に納得せしめたのだろうか。気になってしまいました。 そんなことより他に面白い虫を探すことに執心していったという気もしますが、どうなんだろう
カッシーニの空隙 9/1 12:47	好奇心がなくちゃ、勉強してる意味ないですよね。 そんなことを考えさせられる作品でした。
ことり 9/1 23:49	アリグモもクロヤマアリも、このコラムを読まなければ知らないままでした…。 作者さんは、どんな自然の真理を追及しているのでしょう？研究者としての将来を応援したい気持ちになりました。 クモに対する観察眼から、作品中の「自分」は作者さんご自分のことではないかと思ったものですから。
葉月 9/2 3:55	実にステキに正統派コラムですね。虫は好きなので、とても面白く読めました。出来事から教訓につなげる王道の書き方が心地いいです。 ただ、「僕にはみんなに見えないものが見えるのかもしれない」 という文章を中盤に挟んだことで、それを前提にした話を期待してしまいました。 話としては面白いのですが、コラム的には必要のない部分だと思いますので、「そのとき」～「近いでしょう」の4行はばっさり切ってしまったほうが話としてはすっきりしたのではないかと思います。 アリグモ見てみたいです。
imt14 9/2 14:57	すごく綺麗にまとまっているコラムだと思います。「アリグモ」という聞き慣れない虫の説明から入って、エピソードを挟みつつ、そこから結論に向かっていく。丁寧な口調で読後感も良いです。 ただ、 ＞疑って、疑って、それでも疑いきれないものが残るときに、自然はその真理をほんの少しだけ見せてくれるということです。 ここが引っかかりました。 個人的には「それ」すら疑いきるのが自然科学だと思っているのですが、どうなんでしょう。これだとちょっと神秘的な結論になってしまうから。
ザ サン・オブ・オージー 9/2 21:7	いい正統コラムです。作者さんはとてもいい経験とそこからとてもいい姿勢を得ているのがわかります。 この歳になって（どこのオッサンだよ！？）アリを追っかけてた頃を思い出し、懐かしく感じられました。

ＴＯＰへ

わたしのことを　きらわないで

合計ポイント：14 Point
作者：弟子
作者コメントはありません。

あなたはいますか
わたしはいません

暗い「はこ」　硬い「おり」　中にいるのは　小さなわたし
覚えておいて　忘れないでね　ここにるのは　わたしじゃないの

わたしはまだ　何も知らない　何も感じず　何も見てない
動きたくない　悲しみたくない　離れたくない　わかりたくない
変わりたくない　治りたくない　ここにはいない　どこにもいない
流れて行きたい　消えてしまいたい　だから誰かに　消してもらいたい

糸がある

自分から　はなれる糸も　知らないの　そう知らないの
両手から　吊られる糸も　見えないの　そう見えないの

気付いて　気付いて　わたしは踊る　酷くみにくい　操り人形
ほどいて　ほどいて　わたしは吃る　焦れもどかしい　緘黙症

糸に吊られて　わたしは投げる　糸に吊られて　わたしは捨てる
みんなはそれを　黙ってみてる　わたしもそれを　黙ってみてる

わたしの右手　わたしの左手
わたしは　動かしていない　動かしていないのに　動くのが怖い
触りたくない　つかみたくない　殴りたくない　見たくない
動かしてない　わたしじゃない　動かしてるのは　わたしじゃないもん
わたしじゃないのに
わたしのせいじゃないのに

嫌い
この手が嫌い
この右手が嫌い　この左手が嫌い
糸が動かすんだ　勝手に悪さをするんだ　わたしは悪くないんだ　全部糸のせいなんだ

そう　こんな手は　わたしのじゃないんだ
こんな手は　いらない　糸のついた手なんて　わたしはいらない

壊したい

痛めたい

刻みたい砕きたい痛めたい叩きたい穢したい断ちたい捻りたい踏みたい握りたい害したい
削りたい突きたい折りたい擦りたい割りたい崩したい蹴りたい裂きたい噛みたい穿ちたい
殺したい

それでも　糸は消えることなく　わたしに捨てさせる

だから　だれか
わたしの両腕を　切ってくれませんか？

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
バケネコ 8/27 10:48	導入部分と締めの一文がとても衝撃的。 中盤の言葉選びからも、手の込んだ感じが伝わってきました。
白雨 8/27 15:0	あなたを嫌わない だからあなたの腕を切ることは私には出来ない
春 8/27 23:36	＞刻みたい砕きたい----- の箇所に直前で出た痛めたいを微妙な位置に出たのが少し不満でした。 でも、歌みたいで個人的には好きです。 特に中盤以降のうっすらと何が言いたいのか分かるような感じが印象的です。
カゲヤマ 8/29 13:55	私とはただ糸に吊られて動くのみ… そんな感じがひしひしと伝わってきて、「わたし」の両手を切ってあげることが逆に幸せに出来る唯一の方法のように感じられます。 あなたのことをきらいはしない だからその腕を…
evolv 8/29 22:11	最後の狂気的な部分がもう少し別の感じになっていたら迷わず一位に投票なんですけど、後半の刻みたいから殺したいがなんか微妙なのも多くって。独特な空気を崩してしまったような気がします。 作者の意図がそれまでの雰囲気を壊すことなら、ちょっと古いけど見たい聞きたい歌いたいとかいれてくれても（笑
halcyon 8/30 1:41	最後の三行だけがテンポ感を感じられなくてちょっと残念。 前半のメトロノームのようなリズムと内容はとても好きです。
ノア 8/30 17:4	あなたのイトを、切ってしまいましょう
sinamo 8/31 15:38	この意識の持ち主は何を捨てているのでしょうか？
カッシーニの空隙 9/1 12:45	いいですねーこの鳥肌の立つ感覚。 それと、実際には糸はつながっていなさそうです。

kate 9/1 13:45	文章の書き方が新鮮でラストの部分で鳥肌がたちました
やまのかめさん 9/2 6:26	操り人形ネタ自体に新鮮さはありませんが、心情をここまでみっちり追ってくれれば感心してしまいます。テンポも良くてお見事。 ただ終盤とオチは……どうなんでしょう。個人的にはあんまり好きになれませんでした。 evolvさんのコメントに同感です。

ＴＯＰへ

＊ナイトメア依存症＊

合計ポイント：13 Point
作者：バケネコ
作者コメントを読む

毎日学校が終わったら、私と一緒にナイトメアを視ること。
それが、交際を申し込んだ僕にたいする、彼女からの条件だった。

ナイトメアというのは、2012年頃に製造されたある映像型ドラッグの、いわゆるひとつの俗称だ。
それが映像型であるゆえに、ナイトメアは化学的な薬物ではないし、また摂取にも内臓器官を介さない。
ナイトメアを摂取する際には、専用のヘッドギアを装着し、網膜投影されたノイズをただ視つづけているだけでいい。
そのノイズはサブリミナルな有意性を持っているため、脳の視覚野にカロッサ型の認識振動を起こすことができる。
むろん個人差はあるが、30分もそのノイズを視つづけると振動は次第に乱化し、鑑賞者はトリップ状態にシフトする。
それがナイトメアの原理だ。
そんな非物質的な原理上、ナイトメアは法律で禁止することが難しく、今でも合法ドラッグの扱いになっている。
けれど、にもかかわらず、ナイトメアはあまり社会に普及していない。
理由は単純だ。そしてそれはまた、ナイトメアという俗称がついた理由でもある。
――ナイトメアは、バットトリップしかひきおこさない。

「ヘッドギアは持ってるの？」
彼女の条件に答える代わりに、確か僕はそう聞いたのだったと思う。
唇まで前髪をのばした寡黙な彼女が、まさかドラッグを持っているだなんて、にわかには信じられなかったからだ。
けれど彼女は、手に提げていた革製の学生鞄から、すぐにそのヘッドギアをだして僕に見せた。
彼女の手に握られた真っ黒なそれは、まるでカブトムシを寄せ集めてつくったみたいにいびつだった。
「でも、どうしてナイトメアなのさ。ナイトメアじゃバットトリップしかできないって聞いたよ？」
今度の僕の質問には、彼女はその前髪の狭間から刺すように僕を見つめつつ、わずかな微笑みを孕んだ声で答えた。
「■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■」

次の日の放課後、僕は彼女と体育館倉庫の中にいた。
彼女は赤や白のコード類を慣れた手つきでヘッドギアに接続し、僕の頭にそれをかぶせた。
初めのうちは何ともなかった。意味不明なノイズが流れていくだけだった。
けれどある時点を境に、網膜に投影されていたただのノイズが、急に明確な風景として僕の視覚に滑り込んできた。
それは廃墟だった。暗くて、赤くて、人形ばかりが飾ってあった。
細部までよく見てみれば、壁も床も天井も、ざわりざわりと揺らいでいた。

そしてその廃墟の中央の部屋では、ひとりの男が死んでいた。
僕が死んでいた。僕が死んでいた。僕が死んでいた。
僕の首はカスタネットみたいに開いていて、割れ目には十数個の眼球が並んでいた。その全てが毒々しい青だった。
しかも、僕の首から垂れ流された赤い血は、徐々に床から立ち上がり、部屋の隅をよろめきながら歩いていた。
手は七本あって、指は三本しかなくて、頭はトカゲみたいに長かった。表皮は黄色い羽虫で覆われていた。
そいつは少しずつ死んだ僕に近寄り始め、やがて床に崩れ落ち、何の前触れもなくこちらを向いた。
ふりむいた顔には、彼女の顔が張り付いていた。彼女の顔は笑っていた。頭蓋骨が裏返ったみたいに笑っていた。

悪夢はそのまま延々と続き、僕はトリップの終焉を自身の失神と共に迎えた。
しばらくたって意識が戻ると、そこには既に片づけを終えた彼女がいて、僕にミネラルウォーターを手渡してくれた。
窓の外にはきれいな青空が広がっていて、遠くには野球部の掛け声が響いていて、つまり完璧に凡庸だった。
世界は全て穏やかで、なめらかで、どこも歪んでなどいなかった。息苦しいくらいに単調だった。

「明日はどうする？」と彼女が聞いた。「■■■■■■」と僕が答えた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
greenbard 8/26 23:6	ありそうな感じで、怖いなーって思います。夢の描写が結構、丁寧で。どこか飛んじゃっている感じもリアルでゾクゾクしました。特に振り返った顔が彼女の顔（！）。バッドトリップなんだけど、現実よりもずぅっと鮮明で生きている実感がある、ということなら、この作品は見事にそれを表現しているように思います。ボクもやってみたい、と思いました。 敢えて「■」で台詞を二箇所伏せた「意図」はなんだろうか、と。そんなことをしなくてもよかったのに。それから、お題「いと」はどこに絡んでくるのかなーって。まさかナ「イト」メアというわけでもないだろうなーって。その辺は疑問のまんま。
bfs 8/27 14:40	いいなあこのぞくぞくするような邪気眼バリバリな雰囲気（きっと作者はこの単語を分かってくれるはず）。 オチも最初弱いかな、と感じたけど色々妄想できて悪くない。いやむしろイイ。 ただ、「～だった」の連続はちょいといただけないかな。そこだけ。
パーク 8/27 21:32	読みやすく、ゾクゾクしながら読み終えました。 幻想と現実の両方が混じった感じが良いです。
カエデ 8/28 20:55	やっぱり、ナいとメアだと思います。 少し「いと」との関連が弱いですが、良くまとまっている素晴らしい作品だと思います。
halcyon 8/29 23:20	彼女の「意図」かと思いました。何となく。 「カロッサ型」が解らなかったので、ちょっと調べてきます。 bfsさんのいう「～だった」連鎖は、ヘッドギア装着後のトリップ感を出しているという点では好みでしたね。 他の所では使いすぎかなー、とも思いますが。使い分けたらもっと非現実と現実の区別がばっきりついたと思うと残念。
halcyon 8/29 23:22	追伸 bfsさん、邪気眼の出典ってなんでしたっけ？（笑）

bfs 8/30 0:15	> halcyonさん http://d.hatena.ne.jp/keyword/%BC%D9%B5%A4%B4%E3 「カロッサ」という単語を調べても詩人しか出てこないんだが、「認識振動」という単語とあわせるとそれもまあイメージできなくもない。いやあもうバリバリですね。
ノア 8/30 16:41	ナ「いと」メア　か。コメント読むまで気付かなかった。 「いと」の関連は弱いが、これを思い付いたことにも価値はあると思うよ。 『一曲20分を全部聞くと精神崩壊を起こす曲』なんてのが昔出回ったことがありましたね。。懐かしい。 音声の変わりに映像とするとちょうどこの作品のようになりそうです。 ところで"邪気眼"ってなんだい？ 出典とやらを見たのだが、SF⊇邪気眼としてジャンルの一種と解釈すればいいのだろうか。
takuto 8/31 6:29	読みやすかったと思います。ストーリー性もあって楽しめました。
弟子 8/31 8:20	その悪夢には　音はありましたか？
森　武 8/31 15:19	確かにいととの関連は弱いですが、ナイトメアという発想は好きです。とてもよくまとまっていて、僕は好きです。「■」で隠す意味は分かりませんが、色々と想像できて面白いです。
no price 8/31 22:20	「■■■■■■」でセリフを隠しているところが、議論あるようですが、 僕は、かなり好きです。 個人の想像で広がる感じがたまらないです。 「いと」とはどう繋がるのだけがよくわからなかったです。
Suzuna 9/1 1:18	導入部分の2行、好きだあー。なんかもう、ここだけで何かが始まりそうな感じがする。 　■で伏せる人物が変わったのは、彼女から僕に何かが伝染した？ だとすると、彼女は付き合いはじめの時点でぜんぶ織り込み済みだった？ …怖っ。 　ひとつだけ、「悪夢はそのまま延々と続き～」とするよりも、恐怖の限界を突き抜けて叫んで失神させてしまったほうが、恐怖が生々しく伝わってきたかもしれない。そこだけちょっと気になりました。ご参考まで。 　「いと」との関連性は？というかたが多いみたいですが、わたしはこれくらい自由な使い方、好きですよー。だって、糸の作品ばかり何十作もあるより、「おお、こういうふうに使ってきたか！」と思える作品があったほうが面白いと思うから。 だって、ひらがなにした意味がないじゃない！
黒眉 9/1 1:57	ナ「いと」メアという発想が面白いと思いました。私もSuzunaさんと同じ意見で、こういう「いと」の使い方があってこそ！だと感じます。作品内部でのナイトメアの扱いも、「映像型のドラッグ」というのは面白いです。 　ただ、面白い設定なのにグロテスクな表現が殆どだったのが残念でした。表現が上手いとは思いますが、長々と説明されてしまうと効果も薄くなってしまうと思います。また、■の台詞は読者に想像させるのも悪いとは言いませんが、せっかく物語のキーとなる部分なので「意味ある台詞」が欲しかったです。面白い設定の話が、描写のための話になってしまうのはもったいない気がするのです。
kate 9/1 13:27	GOTHみたいな感じで読んでて楽しかったです。
s.o.u.p. 9/1 20:29	「バッドトリップを引き起こすことで、現実をより良く見せる薬」 と解釈して良いでしょうか？ それで、彼女には自分を良く見せようとした「意図」があったと。 浅いところで止めましたが、これ以上深入りすると戻れなくなりそうなので。だってドラッグだもん。

Albino 9/2 0:40	唇まで前髪をのばした…で「それはいいのか？」と突っ込んでしまったのはさておいて。 （髪を分けているならこういう表現はないんじゃないか、という勝手な思い込みです） ■は、タイトルの依存症に陥ったことを暗示しているものかと思いました。 いとはこの使い方で面白いんじゃないかなあと。 依存症に陥っているその異常さが言葉にも出ていて、 通常の言葉としては聞き取れない、とかそんな感じに見えました。 そういう意味ならそれぞれの■のあとには何も書いていない方が いいかなあと。描き方はものすごく好きです。
やまのかめさん 9/2 5:25	んー、悪夢の描写は濃密ですごいなと思いましたけど、文章全体としては、結局なんだったんだろう、というような、今一つな印象があったりしまして。ホラー好きな人には受けるんでしょうか。積極的に想像を膨らませながら読むと面白いのかもしれませんね。実はホラーとかちょっと苦手なもので、気持がやや引き気味に読んでしまっているんですよね。すいません。 お題の使い方については自分ではわからなかったのですが、やはりナ「いと」メア？ 全く予想していなかったので驚いてしまいましたが、こういう使い方もあってもいいんではないんでしょうか。でも本当は違かったりして……作者コメント待ってまーす。
パンリコ 9/2 10:54	ホラーはホラーとして楽しまなければいけないんだろうな。と思いつつも、つい現実に引き戻され、十余年ほど前のヘッドギアを用いていた集団を思い出してしまいます。世間を震撼させた事件では多くの科学の知識を持った若者が参加していたのも事実です。 どうか皆さんはお話の世界だけにとどめておいてくださいね。 個人的には合法ドラッグは脱法ドラッグにしてください。 それからどこかのポスターじゃないけど　「ダメ！　絶対」
葉月 9/2 15:35	グロ描写がもっと突き抜けてくれると、スプラッターをこよなく愛する僕は間違いなく一票を投じたんだ。 血が立ち上がるという状況はかなりナイトメアな感じでナイスですが、個人的には彼女の笑顔を貼り付けた小さい虫のような形で大量に立ち上がり、かさかさとすごい速さで自分を這って通過していったりしたほうが悪夢っぽくて良いんじゃないかと思ったんだ。ごめんなさい。完全に自分語りです。 こういうホラー然としたホラーがあると落ち着きます。ただ、文章としてホラー描写中に「しかも」を入れると急に間抜けな印象になると思うのですが、どうでしょうか？ 「頭蓋骨が裏返ったみたいに笑っていた」はかなりナイス表現。 「■」は伝染が一番無難な解釈かしらん。 いや、好きですよこの文章。かなり。

ＴＯＰへ

あなたの好きなことをしなさい

合計ポイント：13 Point
作者：BRAZIL
作者コメントはありません。

母は言った。

「あなたの好きなことをしなさい。」

高校生の息子にはその意味が分からなかった。

自分勝手にしていいと言っているのか。
好きなことを探させるために言っているのか。
息子にはある才能があってそれを母は見抜いて言っているのか。
それとも、もう子育てに嫌気が差してこんなことを言っているのか。

息子は高校を卒業した。

高校では、親がしつこく面倒を見るものだと思っていたが、卒業してもなお親はしつこく息子の面倒を見た。
そこで息子は、あの言葉が、自分勝手にしていいという意味ではないことを知った。

息子は大学生になった。

大学では、自分よりも才能が豊かな人がたくさんいることに気がついた。
そこで息子は、母が自分のある才能を見抜いていたのではないと知った。

息子は会社に入った。

会社では、好きなことを探す時間がほとんど与えられなかった。
そこで息子は、母が好きなことを持つことの大切さを伝えたかったのだと知った。

息子は親になった。

家族では、自分の子供がかわいくてしょうがなかった。いくら時間が費やされようが、かまうまいと思った。
そこで息子は、子育てに嫌気が差して言ったのではないことを知った。

息子の子供が高校生になった。

子供は将来を自分なりに考えているようだった。
そこで、息子は子供に言った。

「あなたの好きなことをしなさい。」

息子は思った。

伝われば。伝われば。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
柚子(ゆうこ) 8/26 18:36	我が身につまされる文章です。
evolv 8/26 22:23	伝わらないのが現実なんですよね。 親としてはこのことにすら気づかせるように育てるのが難しいんですよね。
SOta 8/26 23:13	親の心子知らず、とはこのことですね。 父親が息子に「あなた」と言うのは不自然では、とか考えてしまう。初めも父親で統一しなかったのにはどんな意図が…。
me 8/27 0:12	息子が成長してく過程でだんだんと理解してくのがいいですね。 親心について考えさせられました。
パーク 8/27 21:13	文章の構成が斬新でかつリアリティもあって、引き込まれました。 内容もとても考えさせられます。
春 8/27 23:46	面白いのですけども親になったのにいつまでも息子という扱いなのが違和感。 途中から「彼」にでも切り替えれば良かったのに、と少し思いました。 それでも段々と主人公が気づいて構成は面白かったです。
八剣 8/27 23:51	構成は・・・ベタですね。 自分勝手にしていいと言っているのか。 好きなことを探させるために言っているのか。 息子にはある才能があってそれを母は見抜いて言っているのか。 それとも、もう子育てに嫌気が差してこんなことを言っているのか。 の順番が成長の段階で気付いていく展開と一致しないのが気になった。
やまのかめさん 8/29 22:56	うーん、悪くはないのですが淡々としすぎな印象があります。もう少し読者を引き込む工夫があってもいいと思うのですが。 あと細かい話ですが「家族では、自分の子供がかわいくてしょうがなかった」には違和感が。 「～では」とそれまでの文と形を揃えて場を示すなら「家庭では」では？
ノア 8/31 19:5	息子、と三人称で書かれているのが気になりました。 「息子の子供が高校生になった。」 とあると孫という単語が浮かんでしまうけれど言いたいことはそうじゃなさそうだ。
s.o.u.p. 9/1 20:42	私も親から同じことを言われました。ただ、いろいろと付録が付いてましたけど。 「伝わればいい」と願って多くを語らないのは美しい。 他に言葉を探して、見つけられなかったのかもしれませんね。 でも、親とは違う方法を探すのが子の役目だと思います。

葉月 9/2 4:31	親の意図がわかる部分に全くカタルシスがないのは、ある種革新的ですらある気もします。 起伏のない、のんびりとしたお話ではありますが、根底に流れる愛を感じました。最後の一文のくささとか、結構好きです。 ただまあ、八剣さん指摘の部分とか、「〜〜では」から始まる文章はほとんど一文なのに家族のときだけ二文とか、構成面で詰めようと思えば詰められるところを詰めてない感じがします。ちょっと甘いかな？
laket 9/3 5:47	反省に基づいてもう少し言葉を足してくれてもいいんじゃないかな、と思いましたが、ラストの一文が綺麗なのでこれはこれでありなのかもしれません。 あと、「息子は高校を卒業した」と「息子は大学生になった」が時系列的にはほぼ同時なのになんで分離してるのかちょっとわかりづらかったです。

ＴＯＰへ

糸といえば

合計ポイント：11 Point
作者：太祖武帝
作者コメントを読む

ありきたりな映画なんですが

かなり古い部類の映画なので

いま上映してなさそうだけど

いちどは観てみたいものです

とくに彼女が出来たときには

作品印刷　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
バケネコ 8/26 11:33	その映画の内容にほとんど触れてないせいで、やたらと興味をかきたてられますね。また情報が少ないからこそラストの一文の効き具合がすごい。いやほんと、こんなに短い文で感情を揺さぶられるなんてびっくりだ。
神代千早 8/26 12:35	縦に読めばいいのでしょうか。
バケネコ 8/26 15:7	うあーーー、初見時に気づけませんでした。ショック。
bfs 8/26 15:19	完全に読み流してたぜ…。
柚子(ゆうこ) 8/26 16:57	読み込み　アイデアが面白い、きっと昔のハリウッド映画と勝手に想像しています。、
子育てママ 8/26 20:30	なんだか出そうで・・・
greenbard 8/26 20:50	おお。絶妙なバランス。たった五行なのに、文章自体、すごく強烈。その上、趣向も凝らしてあって、素敵。
未草 8/27 14:32	こんなの見せられたら彼女惚れ直しますよ。きっと。

森　武 8/27 19:55	しょどくでは見落としていました。なるほど、これは面白いなと思いました。
箒 8/29 19:14	ロマンチックですね。個人的には「ローマの休日」とか「ネバーエンディングストーリー」が浮かびました。
halcyon 8/30 2:0	それぞれの記憶や好みによって映画のイメージが変わりますね。 こういう変化球が苦手な自分としては成程こういう手があったか、と目から鱗です。
s.o.u.p. 9/1 20:43	あ。縦読み。 次のお題でやろうと思ってたのにー！
BELIAL 9/1 23:51	縦読みは、やはりその縦読みの完成度だけでなく、その作品全体の作風が一番重要だと思います。 この作品はその点で素晴らしいと思います。縦読みに気付かなくとも、一つのいい作品として読める。 最後に、映画のタイトルがあったらもっとよかったかなぁ、と。
EtOH 9/2 7:58	・・・あ、出たっ。って思いましたね＾＾僕はこういう作品は書いたことないんですけど、いったいどうやって考えているんでしょうね。BELIALさんの言うように、縦書きに気付かなかったとしてもいい作品として読めるので本当にすごいと思います。
King Of Neet 9/2 15:4	縦読みだったのかー！！ 初見では気付けませんでした…
まじょ 9/3 23:46	たいそぶて～さま：作者コメントを読んで ＞現在忙しいし、彼女を作っている暇もなさそうなので うーん、なんだろ、この激しい違和感。 彼女って「作る」もの？　何から作るの？ 彼女って「出来る」もの？　「ひとりでできるもん」？ 「あかいいと」が体言している思想と、ずいぶんと異なるんですね。
まじょ 9/3 23:47	誤字訂正：　体言→体現
太祖武帝 9/7 12:40	＞まじょ様 現在何かと工作しているので、ものを作るのりで「彼女を作る」だとか書いてしまいました。 何たって今回は赤い糸ですからね、「作る」ものでなくて「いる」ものですよね！なんだか「彼女」をもの扱いにしている時点で色々と終わっているところがありますが… これ以上突っ込むといたくなるのでこの辺で！

ＴＯＰへ

ちよこれいと

合計ポイント：11 Point
作者：カエデ
作者コメントを読む

糸のように細い道。そこから続く狭い階段。
絶壁のように高い石作りの建物に挟まれたこの道は、リナとタクトの遊び場だった。

階段の上にリナが、下にタクトが立つ。かけ声とともに小さな手を大きく振ってじゃんけんする。
勝ったほうはその手に合わせた歩数だけ進めた。
パーなら、ぱいなつぷるで６歩。
グーなら、ぐりこのおまけで７歩。
チョキなら、ちよこれいとでやっぱり６歩。
先に階段の端に着いた方が勝ち。

７歩進めるグーを出すのが有利なんて、二人は知らなかった。
チョコレートが大好きな二人は、いつもグーばかり出した。

「リナ、ちよこれいと持ってきたよ。一緒に食べよ。」
「ありがと、タクト。」
大人ならすれ違うことすらできない狭い道。それでも小学校一年生の二人には関係なかった。
階段の同じ段に並んで座り、板チョコを食べ続ける。甘い香りが辺りを包む。手も顔も茶色く染めながら二人はチョコレートをほおばった。

「甘いね。」　　「うん。」

その言葉だけで気持ちは通じた。ちよこれいとは二人を堅く結びつけていた。リナとタクトは、繋がっていた。二人は共に笑い合い、共に泣いた。
放課後はいつもこの場所で、この道で遊んだ。喋った。食べた。

二人は恐れるものは何もなかった。
この道は、そんな二人だけの空間だった。

しかし、二年生になってすぐのある日、タクトは言った。
「オレ、北海道に引っ越すことになった。」
「え？」思わずリナは聞き返す。信じられなかった。
「どうして？」そう返すのがやっとだった。
「お父さんの会社の都合。」タクトはぶっきらぼうに返した。
「……。」

長い沈黙が続いた。

その沈黙の中でも、二人の心は繋がっていた。

年賀状だけの付き合いになってから６年。
年賀状の端のスペースに、はじめはちよこれいとや二人だけの道について書いていたけれど、だんだんそんな言葉も失われていった。
「お元気ですか？」
今ではそんな当たり障りのない無機質な言葉で埋められている。

それでも本当は、リナはタクトに会いたかった。中学生という年齢がその想いを生み、そして阻害していた。小学生のように気持ちを素直に伝えることができなかった。

リナは、二人の気持ちが今でも繋がっていると信じたかった。

中学二年生になったリナは、今でもたまにあの道を通っている。
二人だけの空間は失われていたけれど。

元旦、タクトからの年賀状の可愛らしいネズミの絵の余白にはこう書かれていた。

「親父の仕事がもうすぐ終わり、今年の２月にそちらに戻ります。また会えるといいですね」

外には出さなかったけれど、心のどこかが落ち着かなかった。生温かくてソワソワした気分。リナは１月が過ぎるのを待ち続けた。

そして２月。

タクトは帰ってきた。

再開の日、リナはタクトにただ一言、
「あの道に行かない？」と誘った。
「うん、行こう」タクトの声はずいぶんと低くなっていた。

すでに大人の仲間になろうとしている二人は、以前のように並んであの道を進むことはできなかった。二人は微妙な距離をあけて階段を昇っていった。以前のように駆け上がることはしなかった。心の中とは正反対に動きは落ち着いて、一歩ずつ、一歩ずつ進んだ。

半分ほど昇ったところで、とつぜんリナは振り向いた。

大丈夫。ここは二人だけの道なのだから。さあ、勇気を出して。
自分を励ましながら、リナは言った。

「タクト。ちよこれいと、久しぶりに食べない？」
少し間をおいて、タクトは言った。
「ありがとう。リナ。」

二人は向かい合ってリナの手作りのちよこれいとを食べた。顔を赤く染めながら。

ちよこれいとは、二人を堅く結ぶ赤い糸。
６年ぶりの再会は、２月のちょうど真ん中であった。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
バケネコ 8/26 11:41	＞チョコレートが大好きな二人は、いつもグーばかり出した。 上記の文のグーはミスですかね？ それともちゃんと読めてない？（どきどき） まあとにかく、タイトルの目の付けどころが抜群だと思うのです。確かに、この遊びのときは「ちよこれいと」って発音しますよね。思い浮かばなかったー。 ちなみにうちの故郷ではグーは「グリコ」の三歩だけでした。なんて不公平な。
halcyon 8/27 0:7	「糸のように細い道」が無い方が、最後の赤い糸が引き立つように感じられました。 ラストが２月のちょうど真ん中、というのが心憎いですね。 ちなみに、うちも「グリコ」でした。 みんなグーは殆ど出さないという…（苦笑）
greenbard 8/27 21:6	うん。ボクも「グリコ」の三歩でした。グーを出すと勝っても三歩しか進めない上に、負けたときに相手が七歩。非常にリスクの高いチョイスです。 年賀状の「お元気ですか？」という表現が非常にリアルで。ああ、そうだなーって思いながら。細かい部分、丁寧に描写してあって、非常に好感を持てます。ベタベタなストーリィだけど、文体と内容があっていて、ほのぼのするので、グッドだと思います。
カゲヤマ 8/29 14:55	ちよこれいと　顔を赤く　２月のちょうど真ん中 って糖度で言えば４０度くらいのとてもあまーーい感じが良いです。（一昔前の芸人じゃありませんよ） わたしの地域は何でか グー　　ぐりんぴいす　の６文字（グリンピース） チョキ　ちよこれいと　の６文字 パー　　ぱつくんちよ　の６文字（パックンチョ） の確率学的にも完璧な遊びでした。 え？それじゃおもしろくない？子供にそんな事を言うのは酷ってもんです！
石花 8/29 21:14	最後のチョコは手作りかなぁ いいなぁ転校してからも昔のこと覚えててくれて… ちなみに私の地域もグリコでした。
evolv 8/29 23:25	私もグリコは３歩です。最後まで、グーばかり出す二人が頭にひっかかって閉まって。 あの価値のないグーをいかに出して、チョキを倒すかが楽しいゲームでした。
弟子 8/31 8:33	「はさみ」で糸を切ってしまわぬように
sinamo 8/31 15:57	あったかいですねー。いいですねー。 再開の日、は再会なのか、もう一度始めるという意味で、再開でいいのかどっちかなぁと思いました。 うちの地域では「ぐりこのおまけつき」でした。
ひま人 8/31 21:55	グーはグリコですよwww 赤い糸を感じるいい話でした☆
Suzuna 9/1 2:12	わたしも「グリコ」でしたー。 　でもみんな2段飛ばしで3歩上がってた記憶。こうやって不正が生まれていくのか。 　あとカゲヤマさんのそれはもはや6段上がる意味がないのでは。 　それにしても中学生でこれはちょっと大人すぎる気がー！

Albino 9/2 0:23	自分はグリコのおまけでした。…どっちにしろなんでグリコなんだろうね。 グリンピースというと手遊びの方を思い出す…（正式名称知らない馬鹿） グリンピーｓドン！！ってやつ。これもローカル？ 階段でやったらカゲヤマ氏のは確かにただの勝ち負けだ… ……日本って広いですね＜今更 甘いなー。ほのぼのするなー。赤い糸→甘い恋→甘いもの→チョコときたのかな？ この発想はなかった。ストーリーにもネタにも脱帽。
やまのかめさん 9/2 5:22	そこそこいい感じではあるのですが、もう少しうまく演出できなかったかなぁ。前半あれこれ説明しているのに対して、再開の場面が随分あっさりしているような印象を受けてしまいました。特にリナの不安や期待をじっくり描写して欲しかった気分です。
floccinaucinihilipilification 9/2 21:53	自分の地域（ちなみに神奈川）でもグーはグリコで３歩でしたね。 二人を繋ぐアイテムとしての「ちよこれいと」だったので、無理にバレンタインにする必要はないのではないかと思いました。
浅間ぱんだ 9/3 3:7	なかなか良い演出の温かいお話でした。 >>Albinoさん 叩きすぎて手が真赤になるやつでしたっけ。 もうルールとか何も覚えてないですが。 ＃「あまーい」の芸人、もう一昔前ですかそうですか……

ＴＯＰへ

星の巣

合計ポイント：10 Point
作者：halcyon
作者コメントを読む

雨の日、虫は何処へ帰るのか。

雨が降ると嘘のように姿が見えなくなる虫達は何処に行ってしまうのかという疑問は、幼い頃と同じまま解決されていなかった。
外では細い細い霧雨が静かに降っている。ひんやりとしたその音と空気が気持ちよくて、僕は庭に面した縁側に座って、ぼんやりしていた。ろくな手入れもされていない庭には昔から種々雑多な虫が住み着いているのだが、雨が降ると彼等は一斉に姿を消す。それがずっと不思議で仕方なかった。
ノイズのような雨音に浸りながら緑の葉が上下に跳ねるのを眺めていると、葉陰に何かが煌めいた。目を凝らしてみると、どうやら蜘蛛の巣だ。
作りかけの蜘蛛の巣に家主の姿はなく、獲物が掛かっていることもなく、半端に出来上がった状態のまま雨に打たれていた。この雨の中、巣の持ち主は何処へ行ってしまったのだろう。
蜘蛛の巣の幾何学模様は、神経質な職人を連想させる。次の糸を何処に張るのか、どう広げるのか、虫の中でも数少ない意思を感じさせるからだろう。無駄が無く、理知的で、美しい。恐らく巣を作る場所についても、合理的な理由があるに違いない。蜘蛛自身の形状が機械的に見えるからだろうか、蝶や蛾や蜂に比べて、蜘蛛は理数的なイメージばかりが先行している。
雨は、まだ止む気配が無い。

夕方の風が随分冷たくなったので、僕は風邪を引かないうちに部屋に戻った。雨で大分髪や服が重くなっていた。

夕飯を済ませ部屋でだらだらしているうちに雨が止んだ。まだ湿った外の空気を見ながら、新聞を取り込まなくちゃ、と思い出す。庭の泥がはねるのが嫌で、夕刊を取りに出ていなかったのだった。
サンダルを突っかけて庭に出ると、一層空気が冷たくなった。
ふと耳を澄ますと、虫の声がした。何処かの避難場所から、虫達はもう帰ってきたらしい。名前は判らないが、二、三種類ほどの虫の音。もう秋も近い。
ビニール袋に入った夕刊を取り込んで家の中へ戻ろうとすると、ざぁぁ、という音と共に風が吹いた。木が揺らされて水滴が降ってくる。
その拍子に、昼間見ていた蜘蛛の巣が目に入った。
きらきらと水滴が輝いて、まるでビーズを繋げたレースのようだった。
綺麗なものだ。
そう思って触ろうとすると、威嚇するかのようなタイミングの良さで足の長い蜘蛛が一匹、するすると巣の上に登場した。
「……悪かったよ、壊さないから」
何となく語りかけるように呟いて、僕は手を引っ込める。その言葉に安心したかのように、彼（いや、彼女、かも知れないが）は巣の上を歩き出した。

微かな振動に水滴が静かに移動して、それは星の動きを早送りで見ているかのようだ。

空を見上げてみる。雨雲はまだ完全には去っておらず、鈍い灰紫に光っている。

水滴と水滴を繋ぐ白い糸。
星と星を繋ぐと現れる星座達。

そんな僕の考えを読んだかのように、彼が新しい線を一本巣に足した。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
バケネコ 8/26 19:58	確かに、蜘蛛って理数系なイメージあります。特に大きなものになればなるほど。 それにしても、「煌めいた」だとか「鈍い灰紫」だとか、言葉選びがとても素敵ですね。
evolv 8/26 21:52	雰囲気がいい作品ですね。 少し過去形だったり、進行形だったりと動作がカクカクするような印象を受けました。（）はいらなかったかなと思います。
柚子(ゆうこ) 8/27 12:13	似たような感覚を経験をしたことがあります。非常に読みやすく共感できました。
EtOH 8/29 23:41	僕も「いと」で蜘蛛の巣を思い浮かべたのですが、結局最後まで蜘蛛で作品にはできませんでした。蜘蛛でここまで書かれていてすごいと思いました。なんだか季節の風景や、雨が降った時の虫の様子など、とてもよく描写されていて、本当にうまいと思います。綺麗に書かれていますよね。僕は「鈍い灰紫に光っている」という表現がとても気に入りました。こんな色なんだろうな～って。
halcyon 8/30 2:23	ところどころ読点が多すぎる感がありますね。ぶつ切りっぽい感じの。 evolvさんの()も同意見です。
弟子 8/31 4:33	主観任せの視点や感覚でしか自然の美しさというのは見出せない。 都合のよい部分だけを考えることでしか自然の美しさは見えてこない。 その感性に従うのであれば読点や（）は必要であるように思う。 内面披露の文章に伝達理解の為の表現の細工は不必要であるから。
カエデ 9/1 2:39	ラスト三行がとても綺麗ですね。 日常一コマの場面描写がしっかりとなされていて、好感のもてる話でした。
ことり 9/1 23:56	夏の終わり、秋の訪れ、季節を鮮明に感じました。 水滴のついた蜘蛛の糸の輝きを、ビーズを繋げたレースのよう、と表現するあたりがとても詩的です。 綺麗な話だなあと思いました。
やまのかめさん 9/2 6:53	情景描写は素晴らしいですね。しっとりじっくり浸りたい文章でした。ただ「雨で大分髪や服が重くなっていた」にはつまづいてしまいました。語り手は縁側で庭を見ていたんですよね？ 確かに外気に触れているだけで湿ってしまうでしょうけれど、大分重くなる、程かなぁ。些細な点なのですが、浸りつつあっただけに、あれ？と思ってしまい、浸りきることを邪魔されてしまった感があります。 また、オチが狙いすぎと言いますかとってつけた感といいますか……せめてどこかで語り手が星を連想する場面があったりすればよかったのではないかと思うのですが…… > evolvさん 過去形だったり進行形だったりと動作がカクカクするような印象、のようなものは自分は感じなかったのですが、もしよろしければ具体的にどのあたりでそのような印象が感じられたのか教えてもらえませんでしょうか？ 実は別の場所で自分の文

	章について「ます」と「ました」の使い分けにしっくりこないと指摘されたことがあったりしまして、evolvさんの感じ方に興味があったりするのですが。
葉月 9/2 14:40	普通の話に文章力で引き込む、典型的な作品だと思います。すごい手馴れている感だ。 ぶつ切りっぽい感じの読点や（）の使い方は、逆に僕は評価します。一息入れることで、一つ一つの情景を咀嚼しているような気持ちになりました。 強いてけちをつけるなら、筋自体の単調さ？　でも、この素敵情景描写は、この単調さの中でこそ光る気もするのでなんとも。いや、お見事です。
floccinaucinihilipilification 9/2 18:18	足の長い蜘蛛かっこいいですよね。これ友人に言うと十中八九嫌がられますけど。 読点、（）の表現、共に自分は好きです。これらの是非はもはや読者の好き嫌いに依るところな気がします。
kk21 9/3 1:52	表現が綺麗ですね。描写が丁寧で読みやすかったです。句読点の多さは気になりませんでした。
evolv 9/3 2:49	やまのかめさんへ 　けっこう長々となってしまうので、本当はやまのかめさんの作品に返事でも書こうかと思ったんですけど、この作品のことでもあるのでここに書かせてもらいます。あくまで私の個人的な文章から受ける印象なので軽い気持ちで。 　序盤で、雨が降っている。中盤で雨がやんだ。というような、大事な場面変更で使い分ける分にはすごい時間の流れを効果的に感じさせてくれると思うので良いと思います。 　でも、 雨が止んだ　思い出す　庭に出ると　冷たくなった　耳を澄ますと、虫の声がした　取り込んで家の中へ戻ろうとすると　風が吹いた　木が揺らされて水滴が降ってくる　その拍子に　巣が目に入った　水滴が輝いて、まるでレースのようだった　綺麗なものだ。 　上の塊は、私が違和感を特に感じた段落の文章ごとの最後の部分だけ抜き出したものです。 　この段落内はあくまでも雨がやんでからの主人公の行動を表す文章で、とても短い時間軸で起こっていることだと思います。それも、突然な順番の入れ替えも無く、素直に順序どおりに行動していると思います。それなのにいちいち「た」が出てくると主人公がその動きをほかの行動を忘れるくらいの時間を過ごしたという印象を受けます。逆に、最後のレースのようだった。綺麗なものだ。と続けて使うのは主人公が本当に見とれている感じが出ていていいと思います。 　「た」が連続して特別で素敵な文章もあります。一定のリズムを刻み、感情の押し殺された緊迫した場面には合います。感情の変化が多い場合は～してどうなったとか。「た」を減らしたほうが滑らかです。減らしすぎると何が大事な感情なのかわかりにくくなってしまう可能性もあります。 　以前、三点リーダーが嫌いというコメントを見た気がしますが、私も賛成です。たしかに文章の最後の部分の形は難しいけど、うまく使いこなせれば、三点リーダーなんかではあらわせられない、微妙な繊細な間が表現できると思います。 あと少し違いますけど、 くもの巣だ　というところは直前に目を凝らしたという動作とどうやらとあるので、くもの巣のようだ　としてほしかったかな。 やまのかめさん、私の考えは以上です。大変長くなってしまい申し訳ありません。それもコメントって見えている範囲が狭いので、いろいろおかしいところがあるかもしれません。 私自身まだまだ迷い、間違う部分ですけど、これの違和感無い文章は、本当に吸い込まれるような文章なので。少しでも気をくばってくれると私はもっと素敵なコラムができあがると思います。
まじょ 9/3 13:58	evoさん、庭のお掃除済みました。

やまのかめさん 9/5 4:1	> evolvさん 説明して下さってありがとうございます。とても興味深く読ませてもらいました。なるほど、「～た」と「～している」の語尾の混ぜ方で、特に完了調の語尾の使い方が場面によっては気になるという感じでしょうか。自分が読んだときにはそれほど気にしなかったのですが、evolvさんの感じ方もわかる気がします。 > halcyonさん(作者さん) 雨の場面なのですが、これは縁側によるんじゃないかなぁ(もしくは雨の強さに)。でもどんな場面かはわかりました。なんだかケチをつけるような形になってしまってすいません。こんなところが気になってしまうくらい、evolvさんがコメントされていますように吸い込まれるような、引き込まれる文章だったもので。わざわざお答え下さってありがとうございました。

ＴＯＰへ

いと

問　以下の40本の糸のなかから任意の糸を1本選んだ場合、運命の赤い糸を引きあて、かつその運命が成就する確率を求めよ。

赤い糸　　11本
白い糸　　10本
蜘蛛の糸　　6匹
その他の糸　6本
非糸　　7本

赤い糸

運命の赤い糸。
まっさきに気になりますよね、当然。
だから、ここから行きましょう。
案の定の人気集中、11本もいただきました。

まずは、さらりポエムから。

二人を結ぶは赤い糸
タイトルのリズムはよいのに、え？　いきなり「愛し合った男と女」って、芸なさすぎでは？　なまなましすぎでは？　「男と女」ってヘーキでやると、フェミニストさんに怒られるぞ〜。あと、子供がいない（あるいは持たない）夫婦だって、いっぱいあるのに、母と子に愛がバトンタッチされるなんて、発想貧困すぎ〜。ぶーぶーぶーと苦情を言っておきましょう。
だってだって、歌い手はニシキカムロさんなのですから。いつも、どかーんと大感動花火じゃなくってもよいけれど、もっと工夫を見せてくれないと。

そして、ここへつなぎましょう。講義ステージでは、つねにニシキカムロさんのライバルとして競い合った戦友さん。

愛しき、赤へ
「ちょ……　ハッピーエンドが好きです。」（ニシキカムロさん）
ほら、言われちゃった。なんでなんで、ここで事故っちゃうわけ？　と不条理にもだえてしまいます。殺すことで愛は永遠に……？　ウソだ！
せっかく読者さんも一緒にほっこりハッピーになった瞬間に強制終了だなんて、まあその分、ドラマティックにはなったけど、マフラーがほどよくはみ出したりするあたり、やっぱり御都合主義すぎでは。

こんどこそ。

ちよこれいと
よかったー。
出会いがあって、別離があって、再会があって。お約束の展開ながら、再会の場面でしっかり出会いのほの

ぼのを追体験する工夫が光って、ヒロインさんのうれしさに寄り添えました。ゆっくり階段を昇ってゆくどきどきとか、いい描写です。
　ただ、ちょっと改行使いすぎでしょう。時の経過を演出したかったのだろうとは思うのですが、字数カウントに入らないとは言え、空行が増えるとスクロールという手間を読者さんに強いることになります。４行も５行も開けるとストーリーの流れも途切れてしまいますし。そのあたり、ご用心。

　じゃんけんの無邪気さから、監禁のヤンデレへ。　←すごい飛躍だ。

愛のかたち
　まあでも、ハッピーエンドなのです。
　おーい、このアンダーライン付きの説明セリフは、なんじゃいな。良子ちゃんの狂乱ぶりは定番通り、言ってみればありきたり。このセリフだけが作者さんのオリジナリティを主張できるポイントなのに、ヒドすぎるでしょ。瀕死の人間が言えるセリフか、ちゃんと朗読してみた？
　カゲヤマさん、轢死した「ケヒャ」の続編書くんじゃなかったのか。
　そして、またしても「ひろくん」かよっ！
＃　講義版コラムランド最終回「愛」セッションＡ－５エントリー「愛のカレー」通称ヤンデレ作品の被害者くんも「ひろくん」でした。

　こほん。ハッピーエンドを続けましょう。

糸と少年
　するするする。糸引く少年。
　擬音効果に期待するなら、「必死で」というような「するする」にそぐわない感情表現は省いて、もっと坦々と。
　抽象的・寓話的な光景が続くので、この「糸」って「時間」の象徴かな、それともこいつの正体は納豆かななんて、あれこれ推量しつつ読んできて、さいごで裏切られます。守るべき人ができたから、赤（なぜか「紅」）い糸は放置って、なにそれ？
　しゃにむに前進し続けた少年時代が、伴侶との出会いを以て落ち着きを獲得するという人生における空気の変化を描きたいなら、別の工夫を。

　これもハッピーエンド、なのか？

betrayed
　臨死体験。友達の白い糸３本に立ち向かって、赤い糸がぐいぐいパワフルに。
　その発想がユニークでした。友達が三人ひとまとめなのがかわいそう。こんな扱いなら、一人に減らして、しっかり人物像を描き込んだほうが、友達か、恋人（？）かという対比がもっとせつなくきれいに出てくるでしょうに。
　しかしてこのオレは「西城秀樹」、なのか？　高校生作者さん、シブすぎ！

　煙に巻かれたハッピーエンド。

his word, her world.
　超ひも理論。いちばん、おとなな赤い糸、と見せて、じつは夫がべったり甘えんぼうでしたとさ。
　語り口、おみごと。みなさまのドツボにはまって、１ポイント差で「モノクローム」を振り切っての首位です、おめでとう!!
作者コメントで、神代千早さんと思う存分理系トークをどうぞ。

　最終コーナーは、一直線に飛び込めない、揺れるおんなごころを三本立てで。

糸の行き先
　「そのうちに、小指に糸がついていなければ男とは思わなくなっていった。」こわっ！　なまじ糸が見えてしまう悲劇が、このフレーズでしっかりつかまえられています。でも、この糸はヒロインさんの思考によって可動なので、見えてもあんまり意味はなさそうですが。
　なかほどの展開が少しゆるすぎの感ありだけれど、想定通りの幸せか、波乱覚悟の冒険か、女性の選択の永遠の定番をていねいに形にしていて、書き手さんの思考の誠実さを感じます。もちろん、選ぶのは後者ですよ

ね、女性なら当然!?

糸 の い ろ
　こちらも女性視線メインでていねいにドラマを組み立てていって、でもラストの「わたくしよ」が分からないなあ。いつもの強がり、それとも待ち疲れて別の人に？
　おんなごころはただでさえ分かりにくいのに、この島の島民さんたちは、その方面にはとんと不案内なので（たぶん）、ぜひ御指南をお願いします、おねえさま☆

切れた赤い糸からやさしさを
　切れた糸をつなぎ直さず、ずっとそれで自分を縛ったまま、という状況の痛々しさが主題なのでしょうけれど、設定はありきたりだし、キャラクターの肉付けは全くされてないし、女友達のようわからん愚痴に付き合わされたなあという、もやもや感。
　過去の彼への罪悪感が、なにゆえに今の彼へのやさしさとなって発露するのか、せめてこの核心部分くらい、もっとしっかり掘り下げを。そもそも「やさしさ」ってただ漠然と備わるのではなくて「遅刻を許す」「まごころ手料理」など、いろんな行動を通じて相手に伝わるものですよね。
　「その人はとてもすばらしい人で、私にはもったいないくらいすばらしい人。」ちっとも具体的に浮かんできません。人物造型に留意されたし。

　事故ったりヤンデレったり、おつかれさま。ラストはさらりと。

糸といえば
　たてよみの工夫は分かりましたが、タイトルとどうつながるのでしょう？
　「あかいいと」というのが映画名？　でもなさそうですが。そこまでワザが届くと、もっとすばらしかった。
　まあでも、これだけ「やられた」って言ってもらえるとうれしいですよね。

白い糸

　糸と言えば、やはり白が定番なのでは。赤に1本だけ負けて10本でした。
　こわいの、から行きましょうか。ぞくぞくぞくと３作品。

ピアス
　つーちゃんです。
　こなれた筆さばきなのですが、もとのお話にかなり依存してますね。そうなると、恐さはやはり、もとのお話に負けてしまうわけで。
　「そおいっっ」と口調のノリで楽しく読めはするのですけれど、「耳から白い糸」伝説を知ってる人には物足りなくて、知らない人にはようわからん、という半端な仕上がりになってしまった感が残念。

　ああここにも、切ってはいけない糸が天井からだらあり。

あなたには、こんな糸は見えますか？
　命の糸が切れる。なるほど、言い回しと現象がぴたり符合してますね。
　で、父と子の切れた糸が名残惜しげに、なつかしい我が家の天井から垂れ下がる、ということでしょうか。
　お母さん、供養してあげて！ ラスト「切っちゃいましょ」ではなく、霊的な何かを感じてお母さんが立ちすくむ、という終わり方のほうが、ぞくぞく感が増したのでは。

白い糸
　写真の怪。
　先輩だと思ったら、自分の身の上にも……　列車に轢かれてバラバラなら、びっしりの場合は墜落死？　焼死？？　そこをもっと、じわじわと恐怖感煽ってほしかった。去り際早すぎでは？

　ホラーじゃないけど恐いものを。

モノクローム

幼なじみ君の意図不明。
最初、カラフルな世界へ移行しても、モノクロームだったあの頃を忘れないでね、ということかと読んだのですが、コメント陣の展開を見ているうちに、「色を認識できない」説に傾いてみたり。
読み手のとらえかたによって、どのようにでも映るストーリー、というのが作者さんの「意図」？？　その「もどかしさ」も作品の魅力として評価されての銀メダルでした、おめでとう。

こわいのは、ここまで。
お次は抽象的な糸を２本、お届けです。白か？　って聞かれると、まあ、透明に近いのかもしれないけれど、いちおう目に見えてるので。

いーとー・まきまき
齢を重ねるごとに、人に絡まる厄介な世のしがらみ。
それを「糸」と置いて、つぶやき風にまとめて読みやすいのですが、でも、「糸の切れた凧」でも困りますよね。そこが世の中のむずかしさ。糸のポジティヴ面への言及もあると、もっと生きてる意味に近づけたのは？

少女
緊張の糸。ふとしたはずみで切れた瞬間の大泣き。思い出のリアリティは伝わってくるけれど、「まるで爆弾のスイッチをオンして、今迄胸の中で張り詰めていた『糸』がパーンと切れて粉々に散ってしまったかの様だった。」というこの核心部分の描写をもっと練り込みたい。糸って、ぷつりと切れはしても、パーンと粉々になる感じはしないのですが。
あとタイトル。自分のことを「少女」と表現するのは巨大な違和感。あくまで客体として愛でる存在ですもの。

さいごは、具体的な糸たちで。４本。こちらも「白」という明示はないものの、白っぽいイメージなので。

史実の中の真実
オチは、ここまで読み手を選んでしまうものだとちょっと狭いか。
で、ラストも貞任みたいに上の句付けてね、という読者さんへの誘いでしたら、字足らずなのは改善したい。
数学の「解」と猫の「カイ」をかけたいなら、名前をオチに持ってくるのは御都合主義すぎ。
……というあたりが、運びのユニークさは買うものの、「ほころび」として目に付いた部分です。ああもちろん、「コラムｉランド」は完全にＮＧワードですので、ご用心。

「いと」ってなんだ！？
こちらもＮＧワード入りでした、残念。「コラム」が単体で出てきてもそれだけならＮＧまで行かないのですが、この一文は「いとのコラムを書こうとしている」という設定を説明抜きで前提としていて、その設定はこの島にいる７０人にしか通じない。だからコート違反です。
じーーーーーーーーーーーーーーー　が、とても臨場感出てて、良かったんだけどなあ。

いとの上
１アイスクリーム、２アイスクリーム、えいっ。
たどたどしく呪文を唱えて、かわいらしさ全開。
……を意図されたのでしょうね。でも、ぽんぽんはずむセリフを愛でるより前に、何してるの？　と糸とボールの曲芸の光景が見えてこなくて、そこでつまずいてしまいます。
状況が見えない！　というコメントが多かったですね。それだけここの読者さんたちは、マジメに厳格に読もうとされてるのかな、と。

ストレスを感じて
「イラッ」から「ブチッ」まで。
うまいうまい。
何より省略技が光ります。いったい何をほどこうとしているの？　なんていう説明をすぱっと放棄して、そのシーンだけを大写し。だから誰しも自分の経験に引き寄せて想像できて共感度大でした。こういうのだと「見えなく」ても、ゼンゼンへーきなのに。

蜘蛛の糸

　赤・白、の次に多かったのが、色で特定するのではなく、製作者（なんじゃそりゃ）で特定する蜘蛛の糸パート、６匹（でいいのか？）いただきました。

　まずは、広がりのある、雨上がりの宇宙へ。

星の巣
　観察の細かな文章で、しっとり読ませます。ただ、運びがちと「理数的」に過ぎたか。
　特にラスト、蜘蛛の巣と星座を対比しているこちらの思いに答えるかのように一本足しちゃう彼。デキスギ君です。ここまで予定調和だと、読み手は逆に作者さんの計算の上で踊らされている息苦しさを感じてしまうかも。（まあ、すなおな読み手さんなら、だいじょうぶか。）
　雨の日、虫はどこへ行ってしまうのだろう、が全体を支える問いなので、「種々雑多な虫」「名前は判らないが」と十把一絡げでなく、できれば鳴き声だけでも描写すると、もと臨場感。ついでに単に「木」とか「葉」も手抜きかな。こういうところにも植物の名前をきちんとはめこんでゆくと、もっと光景が具体的になってゆくと思います。風景描写の基本。

　やっぱり地獄に垂らされると、インパクト大ですな。２本、降りてきました。

極楽と地獄のあいだ
　もとエンジニアさん大活躍の巻。
　さらに、エンジニアさんを奪い合って、トロイア戦争のごとく地獄vs極楽の戦いへと発展。
　その決着もついて、「地獄の底でも幸せはあるのだ」と、なかなかの人生観に落ち着いたかと思いきや、波乱を呼びそうな蜘蛛の糸がたら～り。
　めまぐるしい展開で読者サーヴィスに徹してますね。賑やかさと語り口の飄逸さで銅メダルです、おめでとう!!　これからも職場が地獄であろうが極楽であろうがグッジョブをよろしく。

蜘蛛のいと
　こちらも地獄に垂らされた糸。
　恐ろしい、恐ろしいとつぶやきつつ、自分がどんな罪人であるかについて、まるで脈絡なく語っているあたり、狂気っぽさの片鱗は感じられるのですが、まだまだ抽象的すぎて読者にイメージしてもらいにくい。「崩壊の音が好き」な僕がどんな重罪を背負っているのか、カナメの部分の描写をぜひ。

蜘蛛の糸
　同じタイトルでも漢字のこちらは、インターネットの蜘蛛の糸によって世界とつながるお話。
　イタリックの後段を「私が切ってあげたの」と過去形にすると、ゴチックの前段とうまく呼応したのでは？

～
　せっかく３パターンでつくっているので、もっとバランスを気にしたかった。
　女どうしの部分だけ、やたらに手あついのは、何か憾みでも？　なんて思ってしまうので。
男と女の多様な関係についての洞察を、今後ぜひ深めてくださいな。

自然と向き合うということ
　ですます体。話し言葉の親しみやすさで、するり、入ってきます。
　ふつうのエッセイ・スタイルでなく、敢えてこうした語り口にされたのは、ちょっとお説教くさい話なので、この工夫でやわらかく届けたかったということでしょうか。
　このスタイルにしたことで、どんな「場」で話されているのか、語り手さんの立場や職業は？　といったことが気になってしまいました。ぶどう、みたいにそこがくっきりしていると、もっと良かったのでは。

その他の糸

　その他の色の糸たちです。
　透明が２本、青と緑が１本ずつ、黒が２本で計６本なり。

　透明つまりは見えない糸が、縛ってくれちゃうんですね、うふふ。

縛
　タイトルは「いましめ」と読むのでしょうか。
　あきらめの境地？　に至るには、３行ぽっちでは、ちょっと急ぎすぎて付いてゆけませんでした。

わたしのことを　きらわないで
　こちらは、かきくどくような語りで「両手から　吊られる糸も　見えないの　そう見えないの」
　絶品のフレーズのところもあれば、そこが逆に浮いてしまうくらいに、練り切れてない箇所（たとえば「そう　こんな手は　わたしのじゃないんだ」の「そう」は唐突かな、と）もあって、心にしみるには、ちょっと足りない気がしました。

青く儚く
　赤だらけだろうと予想して、敢えて青。その狙いは的中、視聴覚室に筋肉ダルマ×５とパワフルな仕上がりです。
　まあ、こうなったらあきらめが肝腎でしょうか。「女同士でやってくれないか」って、霧島君、甘い甘い。恐さは筋肉ダルマ×５と同じ、もしくはそれ以上でしょうよ。

ツルの恩返し
　敢えて緑。ヘチマ。いや、糸瓜もしくは天糸瓜！
　ラジュ氏エライ。新メニューを提供して、ちゃあんと恩返ししているではありませんか。
　さてさて、シブ〜い料理長さんはキラウエア火山をどう料理してくださるのでしょうか。マグマ焼き？？
　ぞんぶんに楽しんでもらえての４位です、おめでとう。

救いのひとすじ
　敢えて黒。さびしい、ひとりぼっちの、けなげな黒。
　おじいちゃん、がんばれ。僕、がんばれ。
　あはは、ダマされたあ、のあと、そんなふうに応援したくなる爽やかミスリードでした。　波平さんのイメージが国民的であることを改めて確認できた５位でした、おめでとう。

その二人、冒険屋
　糸を引く黒幕のシェザードめ！
　語り口のはずみっぷり◎。展開のにぎやかさ◎。
　でもマナム、巨悪はそっとしておくほうが賢いと思うなあ。冒険屋風情が取って代わっても、この荒廃した国々を治められるわけないんだから。
　コンテスト開始直後の「このスレは伸びる」とのbfsさんの予言がみごと的中したことにびっくりでした。

非糸

　さいごはせっかくのひらがなお題なのだから、と「糸」を切って羽ばたいてくださった７作品です。
　まずは「意図」もの４つ。

糸話
　タイトルは、し・わ？
　こんなぶっ壊れた文章の作者の意図なんて、わかるかっ！　というリアクションを期待したのでしょうか。
　それとも、坦々と、同じようにぶっ壊れた文章を返せば花丸がもらえるのでしょうか。
　きっと作者コメントで模範解答呈示してくださいますよね、ね？

この作品の「意図」はなにか？
　ひとつの色で塗り潰された文章。だから、読者は受け入れるか拒否するかしか選びようがない。
　そのぶん、読むほうは考えずに読めるのでラクですけれど、響いてくるものも期待できませんでした。
　作者さんは、自分を賢いと思ってるフェミ嬢を、こうやって戯画化してるのかなあ、大谷崎の向こうを張って。前作（プール）もそうでしたが、ストレートに主張を展開するのではなく、フィクションに仮託すること

でどういう効果を狙っておられるのかが、つかめませんでした。そのあたり、コメント陣の抱いた疑問と同じです。

日記（ブログ）について
　私がmixiをやめたわけ、といったところでしょうか。まだ、やめてはおられないようですが。
　「３年前」といきなり個人的に入っているわりに、そのあとが一般論なので、誰かのつぶやき、以上の印象を受けとれませんでした。ふうん、そんな感じなんだ、と知らない人にも伝わるように。

あなたの好きなことをしなさい
　あとからじんわりしみてくる親の思い。気づいたときには遅すぎる。
４つの可能性をひとつひとつ試してゆくという、かっちりした構成で、ことさらなドラマも作られていないのが、かえってすっきり実感こもって聞けました。
　渋い存在なのにこの順位ですもの、書き手さんの思い、しっかり伝わったと思います。

　さいごのさいごは、糸も意図も振り切って独自の境地へ突っ走った３作品です。

　まずは「いとしき」。

いとしきうそ
　こ、こ、こんなの作られたら、ツンデレが成り立たないじゃないっ。
　こほん。
　ツンデレはともかく、恋の手練手管、ダマしダマされ、という人生の楽しみが消えちゃいそうですね、チカチカ発光（？）器。before　/　after　このままだとあまり変化がなくて、せっかくのSF設定が活きないので、やってることが、こんだけ変わるんだよ～という展開のほうがよろしかったのでは。

　そして「ナいと」。

＊ナイトメア依存症＊
　ちょっと行ってきます、のトリップ加減がすばらしい！　戻ってきての完璧に凡庸な世界との対比が、くっきり。
　でもこれ、一緒に見てるんじゃなくて、僕ひとりで見てるのですよね？　敢えてこの行為を交際の条件に選んだ彼女の意図は？

　イヨちゃんトヨちゃん、ぼくたちふたご☆

女王
　格調高い文体で、邪馬台国が蘇ります。篝火がにじり寄ってくるところの切迫感がいいなあ。
　天佑でしたね。愛しい妹の身代わりをみごとに演じおおせて、めでたしめでたし。